

市民等との協働事業

（令和4年度実施）



青梅市
市民安全部市民活動推進課

令和4年度実施 市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ 番号
1	市民安全部	市民安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	1
2				不動産無料相談会	3
3				日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	5
4				相続税等無料相談会	7
5		市民安全課 (市民活動推進課)	市民相談係 (市民活動推進係)	男女平等情報紙発行事業	9
6		市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	12
7				お〜ちゃんフェスタ2022(コロナ中止)	14
8				一般向けボランティア講座	16
9				「おそきだより」の発行	19
10			青梅市民センター	ネットたまごセンターあそびばART2022	22
11			長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	24
12				長淵地区文化祭	26
13			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	29
14				文化展	31
15				地域散歩(雨天のため中止)	33
16			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	35
17				梅郷市民センター文化祭	37
18			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	39
19				三田地区総合文化祭	41
20			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	44
21				小曾木地区文化祭	46
22			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	49
23				成木地区文化祭	51
24				東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)(コロナ中止)	53
25			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	55
26				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	57
27				第八支会ささえあいフェスティバル	60
28			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	63
29				新町末広町地区市民文化祭	65
30			河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	67
31				河辺市民センター文化祭	69
32			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	72
33				今井市民センター文化展	74
34				市民ウォーキング	77
35	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ	80
36				おうめ環境ニュース	83
37				クールビズ運動	85
38				みんなで打ち水!	88
39				ウォームビズ運動	91
40				エコドライブ運動	94
41				みどりのカーテン事業	97
42				ワクワク!ドキドキ!!水辺の探検隊(コロナ中止)	100
43				多摩川まるごと遊び塾(コロナ中止)	102
44				がんばれ!あゆっ子2022	104
45				炭焼き体験と水辺の交流会	107
46				親子魚釣り教室2022	110
47				飼い主のいない猫のための「里親会」	113
48				動物愛護週間イベントinおうめ	116
49				さくらねこ無料不妊手術事業(いのちを考える会・青梅)	119
50				さくらねこ無料不妊手術事業(おうめ猫の会)	122
51				生物多様性人材育成講座	125
52				丸ごと霞川を遊びつくそう	127

令和4年度実施 市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ 番号
53	環境部	清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業	130
54		公園緑地課	わくわく公園係 (公園管理係)	大塚山いこいの森ボランティア	132
55				緑地管理ボランティア(コロナ中止)	135
56			緑地管理係 (緑化推進係)	青梅の森杉保プロジェクト(青梅の森保全事業)	137
57	健康福祉部	高齢者支援課	いきいき高齢者係 (地域支援係)	青梅市見守り支援ネットワーク事業	140
58			包括支援係	認知症サポーター養成研修事業	143
59				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	146
60		障がい者福祉課	認定サービス係	入門・初級手話講習会	148
61		健康課	健康推進係	第51回おうめ健康まつり(コロナ中止)	150
62	こども家庭部 (子ども家庭部)	子育て応援課 (子ども家庭支援課)	児童・青少年係 (青少年担当)	青梅市親子ふれあい事業ポッチャ大会	152
63	地域経済部 (経済スポーツ部)	シティプロモーション課 (商工観光課)	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	155
64				梅の公園ガイドボランティア事業	157
65		農林水産課	林務水産係	森林ボランティア育成講座	159
66	都市整備部	住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	162
67				青梅市定例住宅相談会	164
68	学校教育部 (教育部)	指導室	指導係	学校教育ボランティア	166
69	生涯学習部 (教育部)	社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2022～	168
70				家庭教育講演会	171
71			図書館担当	この指とまれ！朗読会	174
72				中央図書館整架ボランティア	176
73				おはなしボランティア	178
74		文化課	吉川英治記念館担当	青梅市吉川英治記念館秋のライトアップと夜間開館	180
75				地域連携展示『五月人形展』	182
76				地域連携展示『ひな人形展』	184
77				ガイドボランティア養成講座	186
78		スポーツ推進課	スポーツ推進係	第55回青梅マラソン大会	188
79	市民提案協働事業	子育て応援課 (子ども家庭支援課)	子育て推進係 (支援係)	外遊び型子育てひろば「はらっぱ」	191
80		シティプロモーション課 (商工観光課)	観光係	和楽倶楽部流ともしびフェスティバルin梅まつり	202
81		市民活動推進課	市民活動推進係	わたしが「楽しむ」とまちがよくなる～市内の活動の魅力を知って、○○しよう～	207

令和4年度協働事業の実施結果における課題および今後について

1 課題

- (1)形骸化・形式化となっている事業についての見直し。
- (2)事業を行う前の細やかな準備と、実施後の両者間での問題点や改善点の共有が必要。

2 今後について

- (1)事業を進行する上で、市民等や行政との間でのしっかりと事前準備を行う。
- (2)事業の成果を評価し、問題点や改善すべき点を双方で共有することで、より有効な事業展開を目指していく。
- (3)ウィズコロナの時代における協働事業の実施方法について、これまでの実施方法にとらわれず、新たな実施方法も検証しながら実施していく。

協働事業評価シート（表）

事業名称	行政書士による無料相談会
協働相手の名称	東京都行政書士会多摩西部支所
担当課・係	市民安全課市民相談係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月4日（火） 場所：市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年10月）
(2) 事業の目的 一般市民への行政書士制度普及および相談支援	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。	
(4) 実施内容（実績値等） 行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 2名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 東京都行政書士会多摩西部支部からの要請による。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>行政書士制度の普及、浸透を図るとともに相談支援ができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>相続や遺言に関する相談を実施することができた。相談者数11人</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>無料相談会の開催により、行政書士制度のさらなる普及、浸透を図っていきたい。</p> <p>行政側</p> <p>行政書士制度の普及、浸透のため啓発を行うとともに、継続的に行政書士を活用した市民への支援を行っていきたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

協働事業評価シート（表）

事業名称	不動産無料相談会
協働相手の名称	全日本不動産協会東京都本部多摩西支部
担当課・係	市民安全課市民相談係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月3日(月) 場所：市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成16年10月)
(2) 事業の目的 一般消費者の不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及ならびに安全な取引の推進と向上を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 相談時間内で概ね30人程度の相談を実施する。	
(4) 実施内容(実績値等) 不動産鑑定士による不動産に関する無料相談	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 2名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会の要請による。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>一般消費者の不動産取引に伴う利益を保護するため、不動産に関する知識の普及ならびに安全な取引の推進、向上を図ることができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及や安全な取引の推進、向上を図ることができた。相談者数30人</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識の普及ならびに安全な取引の推進、向上に寄与したい。</p> <p>行政側</p> <p>安全な不動産取引がされるよう相談会を継続して開催していく。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、自治会へのチラシ配布、全日本不動産協会のホームページ

協働事業評価シート（表）

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の夜間無料法律相談会
協働相手の名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)
担当課・係	市民安全課市民相談係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月6日(木)、12月15日(木) 場所：市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年10月)
(2) 事業の目的 市民生活での様々な法律トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による夜間の無料法律相談会を実施する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料法律相談会を開催し、各日5名まで先着順で受付けて相談を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 弁護士による無料法律相談会	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 各回1名 計2名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス多摩)からの要請による。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民生活での様々な法律トラブルを抱えている方の法律に関する相談にこたえることができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民の法律相談の機会を増やすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。相談者数7人</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>無料相談会の開催により、より多くの方の相談に応じていきたい。</p> <p>行政側</p> <p>市民の法律相談の機会を増やすために開催したい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

協働事業評価シート（表）

事業名称	相続税等無料相談会
協働相手の名称	東京都税理士会青梅支部
担当課・係	市民安全課市民相談係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年1月17日（火） 場所：市役所2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成29年3月）
(2) 事業の目的 相続税等様々な税に関する無料相談会を実施する。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。	
(4) 実施内容（実績値等） 税理士による相続税等の無料相談会の開催、12名まで先着順で受付けて相談を行う。	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 2名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 東京都税理士会青梅支部からの要請による。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 相談員派遣、相談対応 行政側： 会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>相続税等に関する諸問題について相談に応えることができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>相続税等に関する相談を実施することができた。相談者数12人</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>相続税等の無料相談会を開催し、より多くの方の相談に応じていきたい。</p> <p>行政側</p> <p>無料相談会の開催により、より多くの方の相談に応じていきたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、東京税理士会のチラシ

協働事業評価シート（表）

事業名称	男女平等情報紙「よつばの手紙」発行
協働相手の名称	NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、mamanicotto、公募委員
担当課・係	市民安全課市民相談係(市民活動推進課市民活動推進係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月から令和5年3月まで 場所：青梅市役所会議室等	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年4月)
(2) 事業の目的 男女平等情報紙を通じて、市民に対し男女平等参画意識の啓発と理解を深める。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市内における男女平等参画社会の実現	
(4) 実施内容(実績値等) 情報紙の企画・立案、取材・調査、編集作業(年2回発行)	
(5) 事業経費(決算額) 941,618円 (委員謝礼 48,000円、報償品費 6,000円、印刷製本費 588,500円、配送手数料 190,740円、通信運搬費 108,378円)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 4人(内訳:団体からの推薦3人、市民公募1人)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

(2) 協働による効果

(市民側)

市側のアプローチにより取材が円滑に行える施設などがあり、編集会議で特集案出しをする際は市民側のコネクションを考慮せず幅広く取材先を提案できた。インタビュー取材では市役所会議室を押さえてもらうことで駐車場が利用できる点と分かりやすい会場ということでインタビューを受ける方も来場しやすかったと思う。取材のオフアワー時は「市の情報誌」というと信用がありスムーズに連絡を行えた。市民や市側が各々の考えやスキルを発揮しながら紙面を作ることは貴重な体験となった。

(行政側)

市民等との協働で企画、編集および発行することにより、市民目線を取り入れたテーマの設定・編集ができた。市民委員のバックグラウンドもそれぞれで、行政のみでは考えつかないレイアウトの提案などもあり読みやすい紙面で発行することができた。
男女平等参画のみならず多様な話題について、市民と行政の意見交換の場として非常に良い機会である。

(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

(市民側)

紙面作りに於いて負担を均等にすることが難しくどうしても市側の負担が大きくなってしまいうのは毎回の課題だと思う。若い方が市民委員を担当してくださると若い世代の情報が入ってきたり新しい視点があり幅広い世代の紙面作りが重要だと感じた。今回はオンライン会議ができ非常に良かったので「ぷらっとカフェ」のような会議日時の工夫やオンラインの活用などの環境作りや市のイベントなどで「よつばの手紙」は市と協働で作成しているというパネル展示のようなアピールをして参加しやすい雰囲気作りが必要かもしれないと思った。

(行政側)

発行から10年以上が経過し、令和5年度からは「男女平等参画社会の実現」から「ジェンダー平等の実現」へと舵を切るタイミングでもある。協働相手である市民編集委員のライフスタイルに配慮した運営も含め、発行方法等を検討する必要がある。
行政が発行する情報紙として表記や表現に多くの制約があるが、市民にとって身近で、読んで伝わる紙面をつくり上げる事が重要である。

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、自治会加入世帯への配布、各市民センター、JR青梅駅・東青梅駅・河辺駅での配布

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	協働事業市民推進委員会
協働相手の名称	NPO法人、ボランティア団体、自治会連合会、青梅市社会福祉協議会、市民公募
担当課・係	市民活動推進課市民活動推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月、令和5年2月 場所：市役所会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的 市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民と行政が協働し、青梅ならではのまちづくりを進めていく。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民提案協働事業に関すること(募集時期や助成金について)	
(5) 事業経費(決算額) 60,000円 (謝礼@10,000円×6人)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 提案や意見の提示、意見交換、青梅市の協働事業推進についての評価 行政側： 会議の事務局、行政側として意見交換、今後の取り組みの検討	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	2
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民が生活や様々な市民活動をしているときに感じた生の声を行政に届け、行政側が実際に実施できていることの差を明確化し、それぞれの立場で意見交換することはとても大切であり、未来の街づくりの根源となる有意義なことである。</p> <p>(行政側)</p> <p>多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる当委員会で、市の協働について意見交換を行った。市民活動団体の現状や課題、考えを知ることができること、また市が抱える課題等について直接意見交換できる場として大変有意義である。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>行政と市民の協働意識向上により市民の事業参画を進めることが、結果的に市民と行政それぞれの自己肯定感向上につながり市民福祉の向上に大きく寄与するものと思う。自らの持っている能力を年齢に関わらず地域の中でも活かし、その楽しさを知り生き甲斐としていく活動は特に60歳～80歳の年齢層の方々に浸透させる取り組みが中学校の部活問題も含めた市民活動の課題解決に向けて喫緊の大きな課題である。今後の委員会でも取り上げ、市内全域での状況確認と改善を図りたい。</p> <p>行政側</p> <p>テーマを絞り検討していくことで協働事業の課題解決や推進に反映していくことができると考え、当委員会での協議内容を各施策へ反映させていくことが課題である。事務局として、的確な協議テーマの設定、会議の運営を調整し、実践できるよう整理していきたい。</p>			

4 情報提供の方法

ホームページ

協働事業評価シート（表）

事業名称	お～ちゃんフェスタ
協働相手の名称	青梅市社会福祉協議会青梅ボランティア・市民活動センター
担当課・係	市民活動推進課市民活動推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年9月18日（予定） 場所：青梅市役所西側駐車場および2階会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり（中止）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成24年9月）
(2) 事業の目的 ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） フェスタを通し、ボランティア・市民活動団体・福祉団体・施設・企業・市民が様々な形で交流することで、相互の理解を深め、地域の活性化につなげる。	
(4) 実施内容（実績値等） 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に考慮したレイアウトをはじめ、開催にむけての検討。感染状況をかながみてイベント中止の検討。	
(5) 事業経費（決算額） なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 3人
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった。
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 事業実施、広報活動（広報おうめ以外） 行政側： 事業実施のサポート、広報活動（広報おうめ）

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた		
	協働相手の自主性・自立性は尊重された		
	事業実施は円滑になされた		
事業終了後	設定した目標が達成された		
	協働で行うことにより効果がある事業だった		
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果 (市民側) 市役所を会場として開催できることは、市民にとってわかりやすく多くの来場が見込める。また、フェスタを通じ市内で活動する団体等について行政と情報共有していける機会となっている。開催周知においての、市広報活用はより多くの市民にとどけることができる。			
(行政側) 会場として市役所西側駐車場および庁舎の一部を提供することで、多くの出店数等を確保できる。また、広報おうめ等を活用し周知を図るなど、市民へ広くPRができる。青梅ボランティア・市民活動センター登録団体を含め、地域の団体の発表の場を設けることができる。市内ボランティア団体の活動状況などについて把握することができる。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください) (市民側) 多世代交流の機会としてさらなる充実を図る。			
行政側 コロナ禍においても開催できる方法の検討。 市民活動団体の紹介・交流等の場としての充実を図っていく必要がある。			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

協働事業評価シート（表）

事業名称	一般向けボランティア講座
協働相手の名称	青梅市社会福祉協議会青梅ボランティア・市民活動センター
担当課・係	市民活動推進課市民活動推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年3月22日 場所：市役所会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（ 年 月）
(2) 事業の目的 新たな市民活動・協働の担い手となり得るボランティア・社会貢献活動に興味を持っている市民にきっかけをつくること、そういった市民に青梅ボランティア・市民活動センター（通称：ボラセン）を知ってもらうこと。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） ボランティア・社会貢献活動に興味を持っている市民の後押しをすることで、今後の市民活動・市民協働・地域活動の活性化を図り、協働によるまちづくりを一層推進する。	
(4) 実施内容（実績値等） 講座名「ふみだそう！ボランティア活動の第一歩」 講師 青梅ボランティア・市民活動センター小林理人氏 対象 ボランティア活動に興味がある人（市民に限定せず） 参加人数：34名（後日、ボラセンへ電話・来訪した人複数あり）	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 1人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ ボランティアに興味がある人向けの入門講座を開催したいと考え、市内のボランティア活動の要であるボラセンへ協働を持ちかけた。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 広報、講師派遣、講座参加者のアフターフォロー 行政側： 広報、参加者受付、会場手配	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果			
(市民側)			
事業終了後、講座参加者4名がボランティア希望としてボランティアセンターに来所があった。ボランティアセンターの役割やできることを周知した結果だと考える。			
(行政側)			
常日頃から多数のボランティア・ボランティア団体を支援しているボラセンと協働することにより、講座参加者の一部をボランティア活動への参加につなぐことができた。 講座参加者へボラセンの存在を周知することができた(参加者34名中23名がボラセンを知らなかったと回答)。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
(市民側)			
ボランティアを実際行っている方の体験談を交えると、より具体的なイメージを持ってもらえたと思う。また、「個人ボランティアは青梅でどれくらいいるのか」という質問に回答することができなかったため、青梅市内の個人ボランティアの実態把握、受け皿の検討をしていきたい。			
行政側			
協働によるまちづくりを実現するため、市民活動団体向けの講座とは別に、長い目で見て今回のような講座の重要性を実感した。参加者アンケートから、経験者の体験談などの希望が多いことを把握したため、ボラセンの協力を得て実施していきたい。			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、行政メール、LINE、Twitter、市民センターに掲示

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	「おそきだより」の発行
協働相手の名称	おそきの学校と地域を考える会
担当課・係	市民活動推進課市民活動推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年7月、12月、令和5年3月 場所：小曾木地区・小曾木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 <div style="color: red; text-align: center;">1、影響なし</div>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成24年9月）
(2) 事業の目的 小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図る。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 若年層から高齢者まで、地域情報を得やすい環境をつくる	
(4) 実施内容（実績値等） 7月、12月、3月の3回発行 情報誌の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の把握。 （令和2年度まで年4回発行していたが、予算と効果の検証によりコロナ禍で3回に縮小した形となった）	
(5) 事業経費（決算額） 144,084円 （印刷製本費48,028円×3回）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力
(2) 協働相手の団体からの参加人数 会員約30名からの情報により編集
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 平成24年度市民提案協働事業で採択された
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 企画、情報収集、編集、発行、配布 行政側： 経費の負担、配布

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	2
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果			
(市民側)			
市民側が主体となり地域情報を取得し地域発信を行うことで、地域状況の変化を市民目線で実施できるとともに、その情報が地域と行政に発信され、地域一体感の醸成や地域活動の推進につながっている。			
(行政側)			
行政だけでは収集困難な市民の身近な情報や地域の課題を掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
(市民側)			
地域の良さを含めた情報発信を行い地域住民の自己肯定感を向上させるとともに、地域課題を共有し改善につなげて行きたい。			
行政側			
他の地域への波及効果を期待する。			

4 情報提供の方法

市役所(PRコーナー・事務室窓口)での配布、第6支会による自治会加入全世帯へ配布、各市民センターでの配布、市民活動団体・高齢者包括支援団体への配布

5 事業の様子（写真等）

[illegible][illegible]

おそきだより

第40号

2023.3.29発行

[LINE](#)
[Facebook](#)

編集：おそきの学習支援委員会 発行：おそき・小倉市市民センター
 このたびは青森市市民会館青森市会館の両会館にて開催しました。

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

小倉市市民センターで実施
 小倉市市民センターで実施

協働事業評価シート（表）

事業名称	ネッツたまぐーセンターあそびばART2022
協働相手の名称	ネッツたまぐーセンターあそびばART2022実行委員会
担当課・係	市民活動推進課青梅市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月26日・27日 場所：ネッツたまぐーセンター	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成25年）
(2) 事業の目的 青梅市民センター文化祭からの継続事業、あそびば文化祭の名称を経て、現在の名称に。社会教育課共催。 ネッツたまぐーセンターを利用する自主グループによる作品展示、演技披露等を通じて、サークル活動を住民に紹介するとともに、ネッツたまぐーセンターを交流の場として活用し、文化の輪を広げる。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） ネッツたまぐーセンター利用自主グループの発表の場を設けるとともに、ネッツたまぐーセンターを交流の場として活用することで、文化の輪を広げる機会とする	
(4) 実施内容（実績値等） ネッツたまぐーセンター利用自主グループの作品展示、演技披露等	
(5) 事業経費（決算額） 15,400円（消耗品費）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 自主サークル34団体	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ ネッツたまぐーセンター利用自主グループの発表の場を設けるとともに、ネッツたまぐーセンターを交流の場として活用することで、文化の輪を広げるため	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 年4回の実行委員会に参加し、事業内容について協議を行う 事業の準備・撤収を主体的に行う 行政側： 実行委員会の事務局業務を行う	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>協働として実施することで、施設利用団体合同の発表の場を持つことができ、団体相互の交流を持つことが期待できる</p> <p>(行政側)</p> <p>普段は貸館業務が主であるため、文化祭は施設利用団体と交流できるいい機会となる</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>あそびばART(文化祭)が発表の場としてだけではなく、文化の輪を広げる「あそびば」となるよう取り組みを強化したい</p> <p>行政側</p> <p>ネッツたまぐーセンターを交流の場として活用していくため、あそびばART(文化祭)が施設利用団体の発表の場としての側面のみにならないよう、体験コーナーを多く設けるなど、文化の輪を広げる取り組みも強化したい</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、館内掲示ポスター・配架チラシ、実行委員私設のSNS ほか

協働事業評価シート（表）

事業名称	長淵市民センター運営協議会
協働相手の名称	第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学、公募委員
担当課・係	市民活動推進課長淵市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年7月15日(第1回)、令和5年3月3日(第2回) 場所：長淵市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 長淵市民センターの効果的な活用を検討する	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について	
(5) 事業経費(決算額) 支出額 76,223円(委員謝礼金 76,000円、郵送料 1,223円)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等
(2) 協働相手の団体からの参加人数 参加人数:10人
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： センター運営全般について協議する 行政側： センター運営全般について協議する

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	3	3
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができる。</p> <p>(行政側)</p> <p>委員との意見交換を通して地域との相互理解に役立っているとともに、市民センターにおける今後の運営へ反映することができる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用についてについて考えていく機会にしたい。</p> <p>行政側</p> <p>運営協議会の意見等を尊重しながら対応していきたいが、施設の改修等の予算化必要なものは協議会の意見が反映されにくくなっている。また近年の協議会では議題等が形骸化している。</p>			

4 情報提供の方法

不要・特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	長淵地区文化祭
協働相手の名称	長淵地区文化祭実行委員会
担当課・係	市民活動推進課長淵市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月12日、11月13日 場所：長淵市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和53年11月)
(2) 事業の目的 長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。	
(5) 事業経費(決算額) 支出額：8,509円(消耗品費 8,509円)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 参加人数：360人(2日間延べ人数)(24団体および個人出展6人)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センター利用団体および地域市民の発表の場創設	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 行政側： 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>発表の場所等のより良い会場づくり。</p> <p>行政側</p> <p>参加団体および入場者数の増加方法の検討。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、長淵市民センターだより

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	大門市民センター運営協議会
協働相手の名称	第三支会、スポーツ推進委員、子供会育成会、防災対策委員会、霞老壮大学、小学校長、保育園園長、利用者団体、公募
担当課・係	市民活動推進課大門市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年7月21日(第1回)、令和5年2月24日(第2回) 場所：大門市民センター第1・第2会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 <div style="color: red; text-align: center;">1、影響なし</div>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 地域の団体や市民センター利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地域の団体や市民センター利用団体が主体となった協議機関として、大門市民センターに置く機能や運営の仕方について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センターの在り方や利用状況、住民票等の交付状況および文化祭の開催等の行政との連絡や地域への情報発信等については、概ね良好であるので、さらに利用しやすいセンターとなるよう努力する。	
(5) 事業経費(決算額) 95千円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 地域の特性や住民ニーズに応じた市民センター運営と地域の市民活動団体の拠点としての活用に向けたセンターの運営全般について提言をする。 行政側： 市民側からの提案をセンター運営に活用する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民センターの施設利用の状況、住民票等証明書の交付状況および市民センター主催の生涯学習事業を知ることができた。また、施設利用上の問題点や有効利用に向けた意見交換ができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民センター管内の住民や利用者からの意見を聞くことができる機会となった。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>活発な発言ができるようお互いの信頼関係をより深める。</p> <p>行政側</p> <p>市民センターをよりよく利用してもらうために、協議会の意見を尊重して運営に努めていく。</p>			

4 情報提供の方法

特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	大門市民センター文化展
協働相手の名称	大門市民センター文化展実行委員会
担当課・係	市民活動推進課大門市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月19日、20日 場所：大門市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 大門市民センター利用団体、地域内小中学校および地域住民の活動の成果と発表の場とするとともに、地域住民に活動を紹介することで、市民センターを交流の場として、団体と住民の親睦の輪を広げる。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動および地域住民の発表の場を設けるとともに来場者の親睦を図る機会とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 利用団体および地域住民を展示し、263名の観覧者が訪れた。	
(5) 事業経費(決算額) 消耗品費 4千円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 利用団体の自主性の向上と活動の活性化を図る。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 団体代表者が実行委員として文化展の運営に当たる。前日および最終日に行政側と協働で会場設営・撤去等を行う。 行政側： 実行委員会を開催して協議する。展示等に必要な備品や消耗品を用意する。展示パネルの設営・撤去を行う。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>活動発表の機会があることにより、来場者に活動の成果を見てもらうことができた。展示に至るまでのプロセスを行政側と協働することで、意見を述べやすくなった。</p> <p>(行政側)</p> <p>施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>団体の会員の高齢化が著しく、活動を継続することが困難になっている団体があるため、発表の場を兼ねて新規加入を促す活動を行う。</p> <p>行政側</p> <p>来場者を増やすための方法を検討する。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

協働事業評価シート（表）

事業名称	地域散歩
協働相手の名称	霞川くらしの楽校
担当課・係	市民活動推進課大門市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年3月25日（予定）※雨天のため中止 場所：霞地区	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（ 年 月）
(2) 事業の目的 参加者同士の交流と親睦を図り、身近な地域の歴史を学ぶ。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 多くの市民の参加により、幅広い年齢層と交流し、親睦を深める。	
(4) 実施内容（実績値等） 霞川を散策しながら、講師から地域の成り立ちなどの歴史を学ぶ予定であったが、雨天のため中止した。	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 大門地区（霞川流域）を活動拠点としていたので、事業を嫉視したい旨を相談したところ目的が合致したため	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側： 事前協議、広報等での周知による参加者募集、当日の資料準備および引率	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	設定した目標が達成された	1	1
	協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>地域で活動している団体なので、地域住民との交流と団体活動の内容を知ってもらうことによって団体への賛同を得られる。</p> <p>(行政側)</p> <p>身近な地域の歴史と自然が題材なので、地域住民の興味を誘いやすく交流を図る機会となる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>市民に活動を伝える機会となるので、より広い地域を対象として今後も協働事業を行いたい。</p> <p>行政側</p> <p>テーマや場所を変えながら、大門地域を広く知ってもらえるように協働事業を実施していきたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、大門市民センターだより

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅郷市民センター運営協議会
協働相手の名称	第4支会、支少年対策梅郷地区委員会、青少年委員、スポーツ推進委員、5小PTA、青梅女性防火防災の会、利用団体、公募
担当課・係	市民活動推進課 梅郷市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年4月～令和6年3月 場所：梅郷市民センター会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的 梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの効果的な活用と運営全般について意見を求めるため協議会を年2回開催する。	
(4) 実施内容（実績値等） 市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。	
(5) 事業経費（決算額） 梅郷市民センター経費（梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金）決算額 90,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 第4支会、支少年対策梅郷地区委員会、青少年委員、スポーツ推進委員、5小PTA、青梅女性防火防災の会から各1名、利用団体2名、公募2名	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるように努める。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民センターの運営状況や市政を間近で知ることができ、地域住民や利用者からの意見等を行政に伝えることができる。</p> <p>(行政側)</p> <p>地域住民や利用者からの意見を得る機会となり、市民センターの運営等について要望等を得ることができる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>意見を出しても、センターの独自事業も限られ、予算的にも限られており、すぐに反映されない。</p> <p>行政側</p> <p>当協議会は報告等がメインとなっており議題が形式化してきている。地域住民の意見・要望を聞き取り、市民センターの運営に反映させる。</p>			

4 情報提供の方法

特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅郷市民センター文化祭
協働相手の名称	梅郷地区総合文化祭実行委員会
担当課・係	市民活動推進課梅郷市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月13日（日） 場所：梅郷市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり（規模縮小）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（昭和55年11月）
(2) 事業の目的 地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 梅郷市民センター利用団体の発表の場を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。	
(4) 実施内容（実績値等） 梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等の交流を行った。飲食を伴うお茶のお点前はコロナ禍のため行わなかった。	
(5) 事業経費（決算額） 梅郷市民センター経費 消耗品費 6,457円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 のべ600人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 梅郷市民センター利用団体の発表の場を提供してほしいとの提案	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 文化祭実行委員会での打ち合わせ、文化祭会場の設営および片付け、展示品の収集展示 行政側： 文化祭実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示に必要な物品の準備	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>日頃の活動成果発表の場、団体間親睦の場、地域住民との交流の場として効果がある。</p> <p>(行政側)</p> <p>利用団体の活動成果発表の場等を作るうえで活気が出る。また、意見交換ができ効果がある。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>活動成果発表の場としてのより良い会場づくりを目指す。</p> <p>行政側</p> <p>コロナ禍に注意しながら、参加団体および入場者数の増加をはかり、活気があり、楽しめる活動としていく。体育館の入口で靴を履き替えると渋滞してしまい密になる可能性がある。また、高齢者は転倒の危険性もあるため、靴のまま履き替えることなく参加できるように工夫する。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、行政メール、ツイッター、センターだより、農協等にポスター掲示

協働事業評価シート（表）

事業名称	沢井市民センター運営協議会
協働相手の名称	第5支会支会長、自治会長、スポーツ推進委員、消防団分団長、高齢者団体、小学校PTA会長、市民センター利用団体代表、公募市民
担当課・係	市民活動推進課沢井市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年9月16日（第1回）、令和5年3月16日（第2回） 場所：沢井市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的 沢井市民センターの効果的な活用を検討するもの。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市の事務事業や地域団体事業等に対する意見や助言等を幅広く受け、今後の沢井市民センター運営に反映させる。	
(4) 実施内容（実績値等） 沢井市民センターの利用状況、施設修繕の状況、市主催事業および地域団体事業等についての現状報告および協議等を実施。	
(5) 事業経費（決算額） 沢井市民センター経費（謝礼金） 決算額 70千円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 第1回：第5支会支会長(1)、高齢者団体(1)、小学校PTA会長(1)、沢井市民センター利用団体代表(1)、公募市民(2)の6人出席 第2回：第5支会支会長(1)、自治会長(1)、消防団分団長(1)、高齢者団体(1)、小学校PTA会長(1)、沢井市民センター利用団体代表(1)、公募市民(2)の8人出席	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱の規定により、沢井市民センターの効果的な活用を検討する。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 地域活動を行う団体、市民の視点で、沢井市民センターの運営にかかわる各種事業等について、様々な角度から意見、助言を行う。 行政側： 地域活動を行う団体、市民からの率直な意見、助言を受けてこれを協議し、沢井市民センターが実施する市の事務事業や地域団体事業等への支援などに、可能な限り反映させる。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果			
(市民側)			
協議回数は少ないものの、沢井市民センターを運営する行政側の考え方を理解するとともに、意見、助言等を率直に伝えることができた。			
(行政側)			
市民からの率直な意見、助言等を受けて相互に議論するとともに、より良い沢井市民センター運営に向けて行政と市民の相互の認識を一致することができた。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
(市民側)			
市民としてもっと広い視点で議論を交わす必要がある。また、サービスを受ける側として、沢井市民センターの運営には、市民がもっと積極的にかかわっていくことが重要である。			
行政側			
直接市民からの意見、助言等を受け議論する機会を確保することは行政として重要であり、今後も積極的に市民の意見、助言等をお聞きし議論する中で、より良い沢井市民センターの運営に繋げていく必要がある。			

4 情報提供の方法

情報提供の実施は特にありません。

協働事業評価シート（表）

事業名称	三田地区総合文化祭
協働相手の名称	青梅市自治会連合会第5支会、清涼会（高齢者団体）、 西東京農業協同組合二俣尾支店、沢井市民センター利用団体
担当課・係	市民活動推進課沢井市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月13日（日） 場所：沢井市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり（実施方法変更）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（昭和54年11月）
(2) 事業の目的 地域住民等の文化意識の向上と地域の活性化を図る。また、出品、出展、出演者等との開催協力などを通じて、住民相互のふれあいや、趣味、生きがい等の発見機会を提供する。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 来場者数700人の確保。作品の出品、出展および演技披露等を通じて住民相互の交流に成果を上げる。	
(4) 実施内容（実績値等） 来場者数572人。出品、出展、演技披露等を通じて住民相互の交流が図られた。	
(5) 事業経費（決算額） 沢井市民センター経費（消耗品費） 決算額 2千円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 青梅市自治会連合会第5支会（12）、清涼会（高齢者団体20）、 西東京農業協同組合二俣尾支店（20）、沢井市民センター利用14団体（140）から192人参加	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 沢井市民センターを利用している各種団体等の作品・演技のほか、地域で栽培した農作物等の観賞および即売会等を通じて、多くの住民等がこの事業に参加するとともに、各種団体等の交流の場を提供し、地域の活性化に繋げる。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 主催者会議・事前説明会出席、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、会場片付け 行政側： 主催者会議・事前説明会出席、会場・必要物品の確保、開催通知・広報、会場準備、進行管理、会場片付け	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>発表の場が広がることで活動の励みとなり、連帯意識も高まる。市民センター利用者間の交流に発展するきっかけとなった。</p> <p>(行政側)</p> <p>この事業を共催することにより、集客効果が大きくなるとともに、この事業を通して普段交流の少ないセンター利用者間の横の繋がりが期待できるほか、協働作業は、日ごろの市民との距離感を縮めることができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>少子高齢化が進む中、若い世代の参加および来場者を増やす工夫が必要である。</p> <p>行政側</p> <p>市民センター利用団体も高齢化が進んでおり、日ごろから子育て中の親子など、若い世代のセンター利用を促進する中で、利用団体の増加を促す必要がある。また、若い世代が興味を示す催しを取り入れていく必要がある。</p>			

4 情報提供の方法

本事業については、自治会回覧、ポスター掲示、市民センターだより掲載により、住民等へ情報提供した。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	小曾木市民センター運営協議会
協働相手の名称	自治会連合会第6支会、青少年委員、民生委員、市民センター利用団体、公募委員
担当課・係	市民活動推進課小曾木市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 8月6日(第1回書面開催)、2月19日(第2回書面開催) 場所：小曾木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 小曾木市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 小曾木市民センターの運営を適正・円滑に行い、かつ効果的な活用を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 小曾木市民センターの利用状況、図書館の利用状況、令和3年度の予算の概要、市民センターの教室・文化祭等について	
(5) 事業経費(決算額) 運営協議会委員謝礼金 0円(書面会議のため謝礼金の執行は無かった)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 延べ20人(第1回(書面会議)10人、第2回(書面会議)10人)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱による。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センターの運営と地域の市民活動団体等の拠点としての活用に向けて市民センターの運営全般について提言する。 行政側： 地域の発展に向けて市民センターのあり方について検討する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	4	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>住民や施設利用者の意見や要望を伝えることができ、かつ、運営状況が掴めた。</p> <p>(行政側)</p> <p>第1・2回目とも、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため書面での会議としたが、委員から率直な意見や要望を聞くことができ、市民センターの運営に反映させることができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>行政のさらなる情報提供による利用者の率直な意見や要望の聞き取り。</p> <p>行政側</p> <p>当協議会は、運営が固定化していきいているので、個々の市民センターで設置する必要性は薄いと考える。</p>			

4 情報提供の方法

特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	小曾木地区文化祭
協働相手の名称	小曾木地区文化祭実行委員会
担当課・係	市民活動推進課小曾木市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月12日、13日 場所：小曾木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年4月)
(2) 事業の目的 市民センター利用団体や地域住民、小・中学生の活動の成果としての作品を展示すること等により、市民に紹介し、地区の連携、コミュニティの醸成を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 過去の市民センター主催事業を発端に作られたサークル主催での形は、高齢化等により限界を迎え昨年実行委員会が解散した。今年度は、市民センター利用団体により新たな体制で実行委員会を組織して、小曾木地区総合文化祭(小曾木っ子まつりと同時開催)を開催した。コロナ禍でもあり、感染拡大防止のための制限は付けての開催とした。高齢者施設の入所者の参加は少なかった。	
(5) 事業経費(決算額) 小曾木地区文化祭 ー円 (小曾木っ子まつり72,026円団体負担)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 実行委員14人。当日参加者約440人。	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センターで活動中のサークルの発表の場や地域住民の作品発表の場を設ける。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会での検討、作品の取りまとめ、文化祭当日の会場準備、作展示および片付け 行政側： 文化祭実行委員会の開催準備から文化祭の周知、会場の事前準備・片付け等	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2) 協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>利用団体や地域住民の成果発表、相互理解、地域の親睦、交流を深める。 小曾木っ子まつりとの同時開催により、子どもから高齢者まで楽しめるゲーム、マジック、ハイレベルなウインドアンサンブルの演奏など、交流の年代や幅が大きく広げることにつながった。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民と行政が共同で文化祭を実施することで、市民にとってセンターがより身近なものになる。</p>			
<p>(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>出展者も参加者も文化祭のみの場合には高齢化等に伴い減少傾向となるが、子どもも楽しめる内容を含めることにより高齢者の方の笑顔や元気もより増しているように感じる。コロナ禍が緩んできたら、市民センター施設をさらに有効に活用して、一層充実した形に進化させたい。</p> <p>行政側</p> <p>あらたな取り組みを検討していく時期にきている。多くの方に参加いただけるよう努めていきたい。</p>			

4 情報提供の方法

ホームページ、センターだより掲載、地域回覧、出展者は個別勧誘も一部実施

5 事業の様子（写真等）



展示：老壮大学



遊びコーナー



吹奏楽コンサート



六中生徒茶室



高齢者脳の元気度チェック



魚釣りゲーム



展示：おそき保育園など



制作コーナー



マジックモンちゃん



展示：高齢者施設など



青少対ポップコーンなど

協働事業評価シート（表）

事業名称	成木市民センター運営協議会
協働相手の名称	第七支会、支会体育振興会、支会防災対策委員会、成木地区教育環境研究会、青少年対策成木地区委員会、施設利用団体（スポーツ団体、文化団体）、公募委員
担当課・係	市民活動推進課成木市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年8月2日、令和5年3月3日 場所：成木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的 市民センターの運営を適正かつ円滑に行うため	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの効果的な活用と事業活動の充実	
(4) 実施内容（実績値等） 市民センター施設の利用状況、市民センター主催事業の成果報告、市民センター予算の概要説明	
(5) 事業経費（決算額） 市民センター運営協議会委員謝礼金 95,000円（委員延べ19人分）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱（平成20年4月1日）	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 地域市民の活動拠点として利用するため、センター運営の全般について提言を行う。 行政側： 地域の特性や住民ニーズに則した市民センター運営を行うため	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果 (市民側) 市民センターから発信される情報に傾注し、移民センターのあり方について意識するようになる。 (行政側) 市民センターの運営について、率直な意見や要望がより具体的に寄せられる。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください) (市民側)			
行政側			

4 情報提供の方法

協働事業評価シート（表）

事業名称	成木地区文化祭
協働相手の名称	成木地区文化祭実行委員会
担当課・係	市民活動推進課成木市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月12日、13日 場所：成木市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成17年6月)
(2) 事業の目的 市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況である展示、演舞・演奏を発表することにより地域の連携やコミュニティの醸成を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体、地域住民および小中学生の活動支援ならびに地域の結びつきの強化につながった。	
(4) 実施内容(実績値等) センター利用団体および地域住民の作品展示、演舞・演奏、小学校総合学習の成果の発表ならびに農産物の販売 展示：15団体、演舞・演奏団体：4団体、農産物販売：1団体、来場者：571人	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 20団体	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 成木市民センター利用団体および地域住民の学習の成果の発表の場の提供	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備および片付け 参加団体による作品展示および演奏・演舞 行政側： 実行委員会開催準備から事業の周知および会場の事前準備等	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解ならびに地域の親睦およびつながりが深化した。</p> <p>(行政側)</p> <p>行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターがより身近で親しみのある存在となった。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>文化祭の規模拡大への方策として、周知方法や若年層の参加方法を考慮すべき</p> <p>行政側</p> <p>地域環境を生かした農業振興による農作物の販売が好評であるので継続したい。 地域住民の作品の募集に対しては、早い時点での働きかけが必要である。 より多くの方の参加につながるよう努めていきたい。</p>			

4 情報提供の方法

協働事業評価シート（表）

事業名称	東京ヒルクライムNARIKIステージ(自転車競技)
協働相手の名称	第七支会、(社)里仁会、KFCトライアスロンクラブ
担当課・係	市民活動推進課成木市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月29日 場所：成木4丁目都道～成木7丁目常盤林道	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年8月)
(2) 事業の目的 恵まれた自然環境を活用した健康づくりを目指す。また、恵まれた自然環境を保護する意識向上を図るため、地域と交流を図り一体感を深める。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 目標参加者数300人、参加選手と地域との親睦	
(4) 実施内容(実績値等) 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴールとする。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 0人(中止のため)	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 地域の一体化を図るため	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 開催準備、交通整理、受付業務、撤収作業 行政側： 準備品用意、交通整理	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	3	3
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	設定した目標が達成された	1	1
	協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>事業中止となったものの、計画段階において協議等を行う中、地域との連絡がスムーズに行われ、地域との関係を深めやすくなった。</p> <p>(行政側)</p> <p>事業中止となったものの、計画段階において、参加者と地域が一体となって協議することで、相互の理解を深めることができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>開催規模の増大に伴う受け入れ環境(施設の充実)の確保と周知の方法</p> <p>行政側</p> <p>受け入れ環境(施設の充実)の確保と競技自体の安全確保</p>			

4 情報提供の方法

協働事業評価シート（表）

事業名称	東青梅市民センター運営協議会
協働相手の名称	第八支会、青梅市スポーツ推進委員、青少年対策第八支会地区委員会、東青梅老壮大学、センター利用団体からスポーツ団体、青梅女性防火防災の会第8支部、青梅市青少年委員、NPO法人青梅こども未来、公募委員
担当課・係	市民活動推進課東青梅市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年8月4日、令和5年2月2日 場所：東青梅市民センター第1会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年 4月）
(2) 事業の目的 市民センターの効果的な運営や活用方法を検討する。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、運営協議会を年2回開催する。	
(4) 実施内容（実績値等） 東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、予算・事業等について	
(5) 事業経費（決算額） 東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 延べ20人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 市民センター運営のあり方を検討する。 行政側： 市民からの提言を市民センター運営に反映させるよう努力する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
		5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった	

(2) 協働による効果

(市民側)

行政に対し、利用者の視点から意見や要望を伝えることができた。

(行政側)

市民の代表から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。

(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

(市民側)

東青梅1丁目地内諸事業用地等利活用構想について、避難場所としての市民センターの役割や、ホールの形態など、利用者の関心が非常に高い。利用者の声を十分反映し、より使いやすいものとなるよう、今後の動きに注視していきたい。

行政側

利用者の視点で出された意見等を集約し、市民センターの運営に反映させる役割を果たしてきたが、最近では報告がメインとなり議題が形骸化してきているのが課題となっている。委員から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映させていきたい。

4 情報提供の方法

協働事業評価シート（表）

事業名称	第41回東青梅市民センターコミュニティ文化祭
協働相手の名称	東青梅市民センターを主な活動場としている文化系サークルおよび第八支会に在住・在勤する文化活動者
担当課・係	市民活動推進課東青梅市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月15日（土）、16日（日） 場所：東青梅市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり（実施方法変更）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（昭和57年 10月）
(2) 事業の目的 東青梅市民センターコミュニティ文化祭は、東青梅市民センターを主な活動場としている文化系サークルおよび第八支会に在住・在勤する者の日頃の文化活動の成果（作品および演舞、演奏等）を発表する場としている。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 感染症対策をした上で、東青梅市民センターを主な活動場としている文化系サークルおよび第八支会に在住・在勤する者の日頃の文化活動の成果（作品および演舞、演奏等）の発表の場を提供する。	
(4) 実施内容（実績値等） スリッパおよび手指消毒の徹底と入場者受付の際に連絡先を確認するなどの感染症対策を行って、実施した。観覧者数は、2日間で延べ1,332人。出品作品数は、549点。演技披露は、3団体。	
(5) 事業経費（決算額） 展示用消耗品費 15,664円 実行委員会会議通知郵便料 4,620円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 30名	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 団体の自主性、協調性を向上させ、活動の活性化を図る。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 団体代表者が実行委員として文化祭の運営に当たる。行政側と協働で会場設営・撤去等を行う。来年度に向けた反省点等を行政側と意見交換する。 行政側： 実行委員会を開催して実施協議と反省会を行う。展示等に必要な備品や消耗品を用意する。展示パネルの搬入・搬出を行う。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5

5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

(2) 協働による効果

(市民側)

活動発表の機会を得て、来場者に活動の成果を見てもらうことができた。また、会員募集にもつなげられた。協働する実行委員会で決定した、感染症対策として、準備や片付けに携わる人数を制限したことにより、地元自治会がパネルの配置や片付けを役割を分担した。これにより、高齢化している団体の会員の負担が、軽減された。

(行政側)

施設利用団体の組織の現状把握と活動内容を把握することができたとし、団体との交流も図ることができた。また、地元自治会の会員の文化活動の状況を見ることができた。

(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

(市民側)

団体の会員の高齢化と会員数減少が著しく、活動のを継が危ぶまれるような団体が増えているため、活動発表の場兼会員募集の場として利用する。

行政側

2日目の終了時間について、地元自治会中心に同時開催している「ささえあいフェスティバル」が午後3時に終了してしまい、これに合わせて地元自治会の展示物を午後3時に片付けさせてほしいとの要望があり、終了時間を実行委員会で検討する。

団体の会員の高齢化と会員数減少により、今後は感染症対策の実施の有無にかかわらず、パネルの配置や片付けについては、地元自治会の協力が必須となるので、その調整が必要となる。

4 情報提供の方法

広報おうめ・ホームページへ開催記事の掲載、チラシの自治会回覧、自治会掲示板へポスターの掲出

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル
協働相手の名称	東青梅市民センターを主な活動場としている文化系サークルおよび第八支会に在住・在勤する文化活動者
担当課・係	市民活動推進課東青梅市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月16日(日)※作品展は10月15日(土)から 場所：東青梅市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年 10月)
(2) 事業の目的 第八支会と第八支会関連団体および管内小中学校、保育園、ボランティア団体等と連携して、地域の自治会活動の活性化、見える自治会活動を図るとともに、東青梅市民センター文化祭と同時開催することにより地域の文化事業の充実を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 感染症対策を徹底した上で、 1 新たな視点(小中学校、保育園との連携、地域活動団体の紹介)で、自治会活動の見直しとこれからの「見える自治会活動」へつなげる。 2 来場者数の増加を図り、東青梅市民センター文化祭の充実に寄与する。(市民センター事業のPRと文化団体の活性化)	
(4) 実施内容(実績値等) 感染症対策(スリッパおよび手指消毒の徹底と入場者受付の際に連絡先を確認し、リストバンドの着用等)を行って、実施した。入場者数は、2日間で延べ1,332人。出品作品数は、549点。文化祭での演技披露は、3団体。「ささえあいフェスティバル」での演技披露は、6団体。 1 小中学校児童生徒、保育園児、自治会員有志による作品の展示(作品数289点) 2 青梅交通安全協会第八支部、青梅市青少年対策第八支会地区委員会、東青梅地区環境美化委員会の活動紹介および第八支会地域の安全を守る会と青梅警察署による防犯の呼びかけ 3 農産物の販売(地産地消) 4 障がい者支援団体・ボランティア団体・NPO法人の活動紹介および物品販売 5 演技披露(鼓笛演奏・キッズダンス・囃子連・フラダンス・AED講習・かつぼれ)	
(5) 事業経費(決算額) 事業費総額 1,227,131円 (地域の底力発展事業助成金 1,000,000円) 支会負担 227,131円 行政負担なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 団体名：青梅市自治会連合会第八支会 参加人数：第八支会役員等スタッフ 51名 参考：団体参加者数 約350人(小中学生等作品提出者含む。)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成28年に第八支会が50周年を迎え、新たな視点での自治会活動を展開していくことと、来場者数が減少していた東青梅市民センターコミュニティ文化祭の活性化、ふたつの相乗効果を図るため。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 会場設営、小中学校・保育園・自治会会員への作品提供依頼、回覧による周知、フェスティバル運営、来場者整理、参加団体の支援、自治会加入促進活動、文化祭会場設営・撤去等 行政側： 会場の確保、市民活動・障がい者支援団体への参加呼びかけおよび調整、地域の底力発展事業助成金の申請・実績報告、ポスター等の作成、予算管理・決算報告等	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果 (市民側) 各自治会や地域の団体の活動内容などを多くの来場者へ周知することができた。			
(行政側) 東青梅市民センターコミュニティ文化祭と同時開催することで、会場設営や片付け等の労力を協働相手にサポートしてもらうことができたし、観覧者数も増やすことができた。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください) (市民側) この事業を継続することにより、自治会への加入促進につなげていく。			
行政側 参加団体の数を増やしたり、参加事業内容を精査して、魅力ある事業とする。			

4 情報提供の方法

広報おうめ・ホームページへ開催記事の掲載、チラシの自治会回覧、自治会掲示板へポスターの掲出

5 事業の様子（写真等）

楽しい催しが盛りだくさん!

第八支会 ささえあいフェスティバル

参加団体 *
 青少年対策第八支会地区委員会
 第八支会地区防災対策委員会
 第八支会地域の安全を守る会
 青梅交通安全協会第八支部
 東青梅地区環境美化委員会
 青梅警察署防犯係
 ままにこっぴ
 ペンギンズ
 こじかの会
 森の演出家協会
 NPO法人青梅こども未来
 JAX東京東青梅支店
 東青梅地区 今！みらい。ささえ愛

**感染症対策のため
体育館裏さき
ご持参ください**

**小中学生
保護者
自治会員有希
作品展示**
 10月15日・16日

**自治会
加入世帯対象
ガラポン
抽選会**
 自治会から配布される抽選券
をお持ちください。
※ 当日加入された方も
参加できます！
第八支会加入自治会限定！

*** 演技披露 ***
 9時00分 献曲演奏「かすみ保育園」
 9時45分 キッズダンス「カラフルレイン」
 10時30分 お囃子「師岡獅子連」
 11時15分 フラダンス「ブアエナOme」
 13時00分 風流江戸っぽれ「梅雀会」

*** AEDの表演・体験 *** ～青梅消防署～
 12時00分～12時45分

*** ボール体操体験教室 *** ～ボール体操・ストボ～
 10時00分～12時00分
 13時00分～14時00分

**輪投げ
ガチャガチャ
お菓子すくいとり、野菜即売
おもちゃの金魚すくい
ワークショップ、手作り雑貨販売
「あげよう もらおう ひろば」
ハロウィンシールラリー などなど
楽しいこといっぱい！
ぜひご来場ください**

10月16日(日) 9時～15時
会場:東青梅市民センター 雨天決行

* 新型コロナウイルスの感染状況により、内容が変更になる場合があります。
 * 雨天・雪など悪天候がある場合、開催はご遠慮ください。
 * 入場時の検温・手指消毒および会場内でのマスク着用にご協力ください。

主催:青梅市自治会連合会第八支会
問合せ 第八支会事務局 ☎ 0428-24-8110
『令和4年度東京都地域の底力発揮事業助成』対象事業



協働事業評価シート（表）

事業名称	新町市民センター運営協議会
協働相手の名称	青梅市自治会連合会第九支会、青少年対策新町地区委員会、青梅市スポーツ推進員、小学校PTA、中学校PTA、利用団体代表、市民公募
担当課・係	市民活動推進課新町市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 第1回：令和4年8月4日（木） 第2回：令和5年3月2日（木） 場所： 新町市民センター会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
1、単年度事業 2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的 新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 新町市民センターの利用利便性および利用率の向上を図る。	
(4) 実施内容（実績値等） 市民センターの利用状況、施設整備状況、センター実施事業等について報告・協議を行うとともに、センター文化祭の実施計画及び役割分担等について協議する。	
(5) 事業経費（決算額） 新町市民センター運営協議会委員謝礼金 85,000円（第1回 45,000円 第2回 40,000円）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 青梅市自治会連合会第九支会2名、青少年対策新町地区委員会1名、青梅市スポーツ推進員1名、小学校PTA1名、中学校PTA1名、利用団体代表2名、市民公募2名 計10名	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センター運営協議会設置要綱	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 市民センターの運営について検討・協議するとともに、実行委員会の中心として、センター文化祭について企画運営を行う。 行政側： センター事業の実施状況について報告するとともに、必要な情報の提供に努め、運営協議会での協議検討結果を運営に生かす。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>地域住民や施設利用者の意見を行政(新町市民センター)に伝え、センター運営に生かすことができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民センターの事業運営について、地域団体や利用団体からの様々な意見、要望を聞くことにより、センター運営に資する貴重な意見を聞くことができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>これまで以上に便利かつ利用しやすい市民センターとなるよう、意見要望していくとともに、具体的な改善策などさらに積極的に運営に関わっていくことが必要と思われる。</p> <p>行政側</p> <p>近年協議会がやや組織運営が形式化してきていると考えられる。各市民センターごとの設置の必要性も含めて検討すべきである。</p>			

4 情報提供の方法

特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	新町末広町地区市民文化祭
協働相手の名称	新町末広町地区市民文化祭実行委員会
担当課・係	市民活動推進課新町市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月12日（土）、11月13日（日） 場所：新町市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり（実施方法変更）
1、単年度事業 2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（ 年 月）
(2) 事業の目的 新町市民センター利用団体などの文化活動の発表の場として、またふれあいの場として文化祭によりセンターに来館し、活動することにより、地域住民の交流による地域コミュニティの活性化を図る。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 参加団体20団体、体育館入場者 2日間合計750人	
(4) 実施内容（実績値等） 参加団体15団体、体育館入場者 2日間合計438人	
(5) 事業経費（決算額） 文化祭パンフレット紙代 8,607円 文化祭パネル運搬代 50,600円 文化祭白布クリーニング代 17,184円 計 76,391円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 新町末広町地区市民文化祭実行委員会 10名
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う。 行政側： 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備をする。

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効であるとともに、文化祭に参加することにより地域と団体との交流が広がる。</p> <p>(行政側)</p> <p>地域住民の自主的な運営により、事務局がさほどかかわることなく、事業が柔軟かつ円滑に実施されている。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>来場人数が減ってきている。より人を呼べる企画運営を検討する必要がある。</p> <p>行政側</p> <p>一部マンネリ化している。また、コロナの影響で来場人数が減っている。人を集められる企画や新規団体の開拓を行うとともに、新たな視点による実施等が求められる。</p>			

4 情報提供の方法

青梅市広報・市民センターだより

協働事業評価シート（表）

事業名称	河辺市民センター運営協議会
協働相手の名称	河辺市民センター運営協議会
担当課・係	市民活動推進課河辺市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年6月23日（木）、令和5年2月11日（土） 場所：河辺市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的 市民センターの効果的な活用方法の検討	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民センターの利用率の向上と効果的な活用	
(4) 実施内容（実績値等） 市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況、子育て広場の利用状況等に関する報告 施設改修実施結果報告および今後の施設改修計画と予算措置状況報告	
(5) 事業経費（決算額） 70,000円（委員謝礼金）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづく
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 市民センターの効果的な活用方法の提案、協力 行政側： 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	3	3
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>協働のメリットの一つである対等な立場で話し合いをすることができ、いろいろな意見を出すことができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>センターの問題点等を利用者側(市民側)の立場から聞くことができた。このことは協働のメリットである「対等な立場」が生かされ、市民側も緊張することなく意見を出してくれた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>対等な立場で話し合いができるが、施設の改善等、予算を伴う案件についての話になると、見送りになることが多く、意見を出しても施設の改善がなかなか進まない。</p> <p>行政側</p> <p>多くの意見をいただくが、予算を伴う場合は要望に沿えないことがあり、意見として何うにとどまることが多い。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、河辺市民センターだより 等

協働事業評価シート（表）

事業名称	河辺市民センター文化祭
協働相手の名称	河辺市民センター文化祭実行委員会
担当課・係	市民活動推進課河辺市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月22日(土)、10月23日(日) 場所：河辺市民センター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(昭和61年11月)
(2) 事業の目的 市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民センター利用団体の発表の場を設け、地域住民の親睦を図るとともに地域コミュニティの醸成を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店	
(5) 事業経費(決算額) 27,192円(消耗品費)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民センターで活動中のサークルの発表の場を提供してはと提案	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 会場準備、片付け。来場者受付、駐車場管理 行政側： 参加団体呼びかけ、日程調整、会場確保、展示用資材、音響設備等の提供、舞台発表プログラム作成、許認可申請手続き、広報	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	3	3
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民センターを拠点とする団体や地域住民の発表の場ができ、多くの方に見てもらうことができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>場を提供することにより、利用者とコミュニケーションが図られた。 市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>市民センター利用団体、地域住民がより多くの参加、発表をすること。 参加者の高齢化による力仕事を伴う準備、片付けが負担となってきた。</p> <p>行政側</p> <p>参加団体、地域住民参加の増加</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、河辺市民センターだより 等

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	今井市民センター運営協議会
協働相手の名称	自治会連合会第11支会、青少年対策第11支会地区委員会、スポーツ推進委員、女性防火防災の会第11支部、保育園園長、今井市民センター利用団体、公募委員
担当課・係	市民活動推進課今井市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年7月8日、令和5年2月28日 場所：今井市民センター会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年4月）
(2) 事業の目的 今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議するため。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。	
(4) 実施内容（実績値等） 今井市民センターの利用状況および運営、令和4年度の予算の概要、今井市民センター文化展、今井市民センター事業等について	
(5) 事業経費（決算額） 運営協議会委員謝礼金 90,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 延べ18人（第1回8人、第2回10人）	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 今井市民センター運営協議会設置要綱による。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。また、市民センターの運営状況等を理解することができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民センターの運営状況等について、理解をいただくとともに、市民センターのあり方等について、意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>行政の報告等を踏まえ、センター運営について利用者の率直な意見や要望を伝える。</p> <p>行政側</p> <p>当協議会は報告がメインとなり議題が形骸化している部分がある。市民センターのあり方等について、地域の意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させていく。</p>			

4 情報提供の方法

特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	今井市民センター文化展
協働相手の名称	今井市民センター文化展実行委員会
担当課・係	市民活動推進課今井市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月29日(土)、30日(日) 場所：今井市民センター体育館	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成13年11月)
(2) 事業の目的 今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げさらに深めることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。また、より多くの来場者数を目指す。(元年度来場者数535人)	
(4) 実施内容(実績値等) ・市民センター利用団体などの4団体の作品(切り絵、書道、陶芸等)展示の他、長寿会と今井自治会連合会の活動活動紹介及び明るい選挙推進協議会活動のコーナーを設けた。 ・参加者407人(検温・手指消毒)	
(5) 事業経費(決算額) 文化展開催のための消耗品費 11,050円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 参加者66人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 利用団体の活性化を図るため	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会により会場の配置図等を作成し、自治会の協力を得ながら、各団体で会場を設営する。 行政側： 会場の確保と展示用具等を提供する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響でここ数年開催できなかったが、本事業は、活動発表の機会を協働で行うことにより、より多くの市民に活動成果を見てもらうことができ、地域住民の交流の場として効果がある。</p> <p>(行政側)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で数年ぶりの開催となったが、施設利用団体の活動の把握と交流が図れる事業であり、また、市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ広く市民に周知できるので継続的に実施していくことが望ましいと考える。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>・2日目は、ふるさと祭りと同時に開催となるため、終了時間が実質的に予定より早くなってしまっているため、開催時間についての調整が課題</p> <p>・参加団体が少なく、また、開催決定時期が遅かったため、展示作品が少なかったため、参加団体や展示作品を増やすことが課題</p> <p>行政側</p> <p>4年度は、この間の新型コロナウイルスの影響もあり、参加団体が例年になく少ない中での開催となってしまったため、今後、より多くの団体の参加が課題</p>			

4 情報提供の方法

自治会回覧

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	市民ウォーキング
協働相手の名称	青梅市自治会連合会第11支会
担当課・係	市民活動推進課今井市民センター

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年1月22日(日) 場所：今井市民センター～霞川遊歩道～塩船観音寺	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年1月)
(2) 事業の目的 市民の体力増進、健康保持を目的に霞川遊歩道を中心に歩き、塩船観音寺で歴史に触れ、地域の連帯と異年齢層の交流と親睦を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 体力増進、健康保持を目的として霞川遊歩道を塩船観音寺まで歩く。多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展に繋げる。(100人程度の参加を目指す。)	
(4) 実施内容(実績値等) ・今井市民センター～霞川遊歩道～塩船観音寺～霞丘陵ハイキングコース～立正佼成会～霞川遊歩道～今井市民センター【距離8.5km、所要時間約3時間】のコースで実施 ・参加者95人(※検温・マスクの着用)	
(5) 事業経費(決算額) (必要経費については、青梅市自治会連合会第11支会体育振興事業会計から全額支出)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 48人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 市民の体力増進、健康保持と合わせて地域の連帯と異年齢層の交流、親睦を図るため、第11支会を中心に参加者が集い、地域と住民相互の親睦を深める。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： コースの実踏、第11支会各種団体への参加要請、開会式・閉会式の進行、ウォーキング中の運営等 行政側： コースの検討と資料等の作成、消耗品の購入、準備品の用意等	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、数年実施できなかったが、本事業は、市民の体力増進や健康保持と合わせ、参加者相互の親睦が図れる。</p> <p>(行政側)</p> <p>本事業は、行政と地域、地域間の親睦と協力を深めることができる事業であり、参加も容易なので、継続的に実施していくことが望ましいと考える。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民の参加が課題 ・実施時期が寒い時期なので、他の事業との調整も必要だが、開催時期を検討が必要 <p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民の参加が課題 ・より魅力ある新たなコースの検討が課題 			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、自治会回覧、電子回覧、ポスター掲示

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	おうめ環境フェスタ
協働相手の名称	おうめ環境市民会議
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：6月～2月末 場所：市役所および市内全域	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年3月)
(2) 事業の目的 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと	
(4) 実施内容(実績値等) 市内市民団体によるパネル展示および市内図書館内における環境関連図書コーナー設置(6月) 基調講演の実施(9月11日) おうめ環境マップの作成・配布(10月～2月末)	
(5) 事業経費(決算額) 128,643円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 3人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成20年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側： 事業内容に関する協議と広報等のメディアによる募集、会場・事業予算の確保等	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民への環境意識啓発協働事業として2009年から始まった、6月環境月間「おうめ環境フェスタ」の、ワークショップやフリーマーケット、フィールドワークが、新型コロナウイルス禍により2020年度は中止となり、2021年度は参加者の非接触型環境活動パネル展示と、青梅市全図書館の環境書籍コーナーの設営のみになった。これを反省して2022年度は通年型を試み、6月は環境パネル展示と環境図書コーナー設営、9月に「基調講演」、10月に青梅市全域の通年型市民環境活動啓発事業として、参加者の見える化と、ネットワークの拡充を目指して、手形折込のパンフレット「環境マップ」を発刊し、広域配布で市民に好評を頂いた協働事業となり、2023年度版を準備中である。</p> <p>(行政側)</p> <p>コロナ前に実施していた1点集客型の事業を見直し、年間を通した環境啓発事業として実施することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルス禍で2020, 21年度は各自治体も環境フェスティバル中止や非接触型事業がなされた。青梅市での2022年度事業は、従来からの6月環境月間中の環境活動パネル展、市中の図書館に環境コーナー設置は実施し、接触型ワークショップは取り止め、基調講演は定員40名定員で9月に順延し、新しい試みとして環境フェスタの6月のみのスポット取り組みを見直し、年間取り組みの試みとした。その代替として22年度取り組んだ新しい事業「おうめ環境マップ」は10月に発刊し、広域大量配布する中で、市民からの評価も高い。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、市ホームページ、公共施設等におけるチラシ設置、青梅商工会議所メールマガジン

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	おうめ環境ニュース
協働相手の名称	おうめ環境市民会議
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：3月15日発行 場所：市民センター等の市内各施設、小・中学校	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成20年6月）
(2) 事業の目的 市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 市民が、①青梅市の自然の豊かさ壊れやすさ、市民生活や産業活動の影響を理解する ②自然環境は水や空気の循環により山・川・海・様々な生物が関係しあい地球環境を形成している事を理解する ③気候変動を防ぎ、生物多様性の維持に寄与する生活スタイルを心掛ける	
(4) 実施内容（実績値等） 紙面の構成や内容について協議をし、12,500部発行した。公共施設や市内の小中学校に配布した。	
(5) 事業経費（決算額） 151,250円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 3人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成19年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 記事の作成 行政側： 記事の作成、レイアウト原案、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市民側のアイデアと視点を生かしながら、行政の客観的な視点を通し、市民に公平かつ広範囲に発信できた。</p> <p>(行政側)</p> <p>身近な環境問題について小・中学生にも考えてもらう機会になったと考える。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>環境フェスタ・環境ニュースなどの主な事業が政策課の範囲の事業にとどまっているので、環境部として連携・協力し市民に発信すること。更に青梅市として地球環境を守るメッセージを東京都・国に発信して実際の成果につなげるよう目的意識を持って取り組んでいただきたい。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

小中学校への全児童配布、公共施設での配布

協働事業評価シート（表）

事業名称	クールビズ運動
協働相手の名称	青梅市環境連絡会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月1日(日)～令和4年10月16日(日) 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 1,466円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： クールビズの実践 行政側： 企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。</p> <p>(行政側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。</p> <p>行政側</p> <p>クールビズについては、周知されつつあると感じているが、市全体として取り組むべき内容であるため、今後も意識啓発のための事業を継続し、浸透に努めたい。(会議の中での意見集約であり、市民側と同意見)</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）

地球を冷やそう！地球温暖化対策実施中！ クールビズ&打ち水を実践してみませんか？

クールビズで夏を快適に！



襟元はノーネクタイ、ノー上着！

クールビズは室温28℃でも快適にすごせる
ライフスタイルのことです！

室温の上昇防止には、よしずやブラインドのほか、植物でつくる
『みどりのカーテン』で日差しをさえぎることも有効です。

クールビズの趣意にご賛同いただける企業・団体
を募集しています。ご賛同いただける皆さまには
「森上のほり旗」を差し上げます。



打ち水で夏を涼しく！

打ち水も温度を下げる工夫のひとつ！
ご自宅でも、じょうろやペットボトルなどで手軽にできます。



風呂の残り湯や雨水などの
再利用でさらにエコ！

打ち水ウィーク

7月24日（日）～7月30日（土）

打ち水は、周辺に注意して行いましょう！
朝や夕方に行うとより効果があります！

問合せ先 青梅市環境政策課管理係
0428-22-1111（内線2536）

青梅市

協働事業評価シート（表）

事業名称	みんなで打ち水！
協働相手の名称	青梅市環境連絡会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月1日(日)～令和4年10月16日(日) 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年 月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 打ち水の実践 行政側： 周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。 打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとりの環境意識向上を図りたい。</p> <p>(行政側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。 打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上を図りたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと思うが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。</p> <p>行政側</p> <p>広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと思うが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)</p>			

4 情報提供の方法

2、ホームページ

5 事業の様子（写真等）

地球を冷やそう！地球温暖化対策実施中！ クールビズ&打ち水を実践してみませんか？

クールビズで夏を快適に！



襟元はノーネクタイ、ノー上着！

クールビズは室温28℃でも快適にすごせる
ライフスタイルのことです！

室温の上昇防止には、よしずやブラインドのほか、植物でつくる
『みどりのカーテン』で日差しをさえぎることも有効です。

クールビズの推進にご賛同いただける企業・団体を募集しています。ご賛同いただける皆さまには
「森上の緑の旗」を差し上げます。



打ち水で夏を涼しく！

打ち水も温度を下げる工夫のひとつ！
ご自宅でも、じょうろやペットボトルなどで手軽にできます。

打ち水ウィーク

7月24日（日）～7月30日（土）

打ち水は、周辺に注意して行いましょう！
朝や夕方に行うとより効果があります！



風呂の残り湯や雨水などの
再利用でさらにエコ！

問合せ先 青梅市環境政策課管理係
0428-22-1111（内線2536）

青梅市

協働事業評価シート（表）

事業名称	ウォームビズ運動
協働相手の名称	青梅市環境連絡会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月1日(火)～令和5年3月31日(金) 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年11月)
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費(決算額) 1,466円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側：ウォームビズの実践 行政側：企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。</p> <p>(行政側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとり環境意識向上のために周知啓発をはかる必要がある。 (会議での意見集約のため市民側と同意見)</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。</p> <p>行政側</p> <p>継続的な周知啓発が必要である。今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）

地球温暖化防止のため、冬も省エネ！ ウォームビズ&エコドライブにご協力を！

ウォームビズで冬も快適！



ウォームビズは、冬も快適な生活を送るための取り組みです。日中はブラインドやカーテンを開放し、窓から差し込む太陽の光をたっぷり取り入れて部屋を暖めましょう。毛足の長い座布団やひざ掛けなど、手軽な保温アイテムを使うことも効果的です。

ウォームビズの推進にご賛同いただける方、個人・企業・団体にお願いします。『最上の暖み』を感じてください。

エコドライブで地球に優しい運転を！

おだやかにアクセルを踏んで発進しましょう。必要のない荷物をおろすことも燃費向上に効果的。運転をされる方なら、今すぐに実践できます。毎日の積み重ねがエコドライブへの近道です！



エコドライブの推進にご賛同いただける方、個人・企業・団体にお願いします。『エコドライブステッパ』を推進します。

エコドライブは安全運転にもつながります。

問合せ先 青梅市環境部環境政策課管理係
0428-22-1111（内線2536）

青梅市

93

協働事業評価シート（表）

事業名称	エコドライブ運動
協働相手の名称	青梅市環境連絡会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金） 場所：青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他賛同団体・企業	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成21年 月）
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地球温暖化防止に向けた環境意識の向上	
(4) 実施内容（実績値等） 青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。	
(5) 事業経費（決算額） 0円（ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： エコドライブ運動の実践 行政側： 企画と啓発物品（ステッカー）の配布、広報等のメディア展開	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとりの環境意識向上に役立てたい。</p> <p>(行政側)</p> <p>環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は、温暖化対策だけではなく、マナーアップにもつながる運動である。市民1人ひとり環境意識向上に役立てたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。</p> <p>行政側</p> <p>エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、さらなる周知啓発に努めたい。(会議での意見集約のため市民側と同意見)</p>			

4 情報提供の方法

2、ホームページ

5 事業の様子（写真等）

地球温暖化防止のため、冬も省エネ！ ウォームビズ&エコドライブにご協力を！

ウォームビズで冬も快適！



日中はブラインドやカーテンを開放し、窓から差し込む太陽の光をたっぷり取り入れて部屋を暖めましょう。毛足の長い座布団やひざ掛けなど、手軽な保温アイテムを使うことも効果的です。

ウォームビズの趣旨にご賛同いただける方、個人・企業・団体様にご連絡ください。「暖上の取り組み」を差し上げます。

エコドライブで地球に優しい運転を！

おだやかにアクセルを踏んで発進しましょう。必要のない荷物をおろすことも燃費向上に効果的。運転をされる方なら、今すぐに実践できます。毎日の積み重ねがエコドライブへの近道です！

エコドライブは安全運転にもつながります。

問合せ先 青梅市環境部環境政策課管理係
0428-22-1111（内線2536）

青梅市

96

協働事業評価シート（表）

事業名称	みどりのカーテン事業
協働相手の名称	青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月27日（水）～令和4年11月30日 場所：青梅市役所本庁舎	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり（規模縮小）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成23年4月）
(2) 事業の目的 地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上	
(4) 実施内容（実績値等） 令和4年度は市内の一般家庭および事業者43件を対象とするみどりのカーテンモニターへのゴーヤの苗の配布を再開した。また、一般家庭および事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施した。（個人部門24件、団体部門12件の応募）	
(5) 事業経費（決算額） 237,914円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人程度（審査員、表彰関係者等）	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅ガス株から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス株を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 副賞代の提供および審査協力 行政側： 周知活動（広報・ホームページ）および受付等の事務	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	4
	協働の役割分担は適切だった	2	3
	協働相手は適切だった	3	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	2	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	2	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	2	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>コロナ禍だったので協働による効果は特に感じませんでした。</p> <p>(行政側)</p> <p>みどりのカーテン事業全体を通して、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため表彰式を実施できなかったが、受賞作品選定において、青梅ガス株式会社およびJAXA西東京の専門家の審査協力を得られたことが事業を充実させるものとなった。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>①企画のマンネリ化 ②審査基準・副賞の見直し ③プロモーションの多様化 ④参加者からのレスポンス獲得 ⑤協働実施主体間での事務調整・意思確認の不足</p> <p>行政側</p> <p>みどりのカーテンコンテストでは、個人部門の参加者が前年度の15人から24人に増加した。また、みどりのカーテンモニター配布については、大型連休でみどりのカーテンを植え付けることが考えられるため、大型連休前の配布を検討したところ、モニター参加者が増加した。ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、環境に対する意識啓発の1つとして継続して取り組んでいきたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊
協働相手の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：8/27(中止) 場所：市民球技場周辺の河原	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 川での安全な遊び方教室、魚のつかみどりから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等	
(5) 事業経費(決算額) 30,540円(事前準備にかかる経費)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 2人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	設定した目標が達成された	1	1
	協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>コロナ禍で事業が実施直前で中止になったため協働による効果はありません。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民団体と綿密な打ち合わせし、双方合意の上で中止の判断を行った。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>今後の課題、改善事項はありません。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめにて参加者募集。中止の連絡は電話、メール。

協働事業評価シート（表）

事業名称	多摩川まるごと遊び塾
協働相手の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：7/30(中止) 場所：市民球技場周辺の河原	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年9月)
(2) 事業の目的 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体感することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育くむことを目的とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館(多摩川に棲む魚等の展示や解説)。	
(5) 事業経費(決算額) 50,000円(事前準備にかかる経費)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 2人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	設定した目標が達成された	1	1
	協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>コロナ禍で事業が実施直前で中止になったため協働による効果はありません。</p> <p>(行政側)</p> <p>市民団体と綿密な打ち合わせし、双方合意の上で中止の判断を行った。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>今後の課題、改善事項はありません。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめにて参加者募集。中止の連絡は電話、メール。

協働事業評価シート（表）

事業名称	がんばれ！あゆっ子2022
協働相手の名称	(特非)奥多摩川友愛会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：5月15日 場所：釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年5月)
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメ、ニジマスのかみ取り	
(5) 事業経費(決算額) 55,500円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 7人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>計画段階から打ち合わせ話し合いに機会を設けていただき、役割、責任分担も明確で有り、事業に最も相応しい形態であった。</p> <p>行政との協働事業により参加市民との信頼関係も築け、我々が伝えたいことなどが良く聞いて頂ける効果があった。</p> <p>(行政側)</p> <p>事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>今後の課題、改善しなければならないことを、行政、市民双方の立場から話し合う場が設けられれば良かったと思う。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめにて参加者募集。多摩ケーブルネットワーク、読売新聞が取材し放送、紙面掲載した。
事業の結果について市ホームページ、友愛会ブログに掲載した。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	炭焼き体験と水辺の交流会
協働相手の名称	美しい多摩川フォーラム
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：8月23日 場所：奥多摩フィッシングセンター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成23年8月)
(2) 事業の目的 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等	
(5) 事業経費(決算額) 250,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 18人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>青梅市共催事業ということで、市民は安心して申込された。、青梅市報に募集記事を掲載すると、順調に申込があり、キャンセル待ちが出るほどの人気ぶりであった。また、ライフジャケット・ヘルメットの貸し出しをはじめ当日はスタッフとして全面的にご協力いただき、協働による効果は絶大であった。</p> <p>(行政側)</p> <p>内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き窯を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>当日の運営に関しては、経験のある指導員を十分に確保し、安全には万全を期しているが、今後も事故が発生しないように、細心の注意を払って臨みたい。発生したゴミについては、各自持ち帰りを徹底し、ゴミの少量化に努めていく。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめにて参加者募集。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	親子魚釣り教室2022
協働相手の名称	(特非)奥多摩川友愛会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：10月16日 場所：奥多摩フィッシングセンター	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成21年10月)
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 溪流釣りの未経験の参加者に、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。	
(5) 事業経費(決算額) 194,500円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 7人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>5月のがんばれあゆっ子と同様、行政との協働により参加市民との信頼関係が強まり、イベントの進行がとてもスムーズに進んだ。</p> <p>当会の自主性も尊重され、伝えたい事柄も伝えられ協働で行なうことで、効果が得られる事業であった。</p> <p>(行政側)</p> <p>事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>事業終了後の課題と改善策の話し合いが持てれば、次の年に改善し、より良い協働事業になると思う。</p> <p>行政側</p> <p>特になし。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめにて参加者募集。多摩ケーブルネットワーク取材し放送した。
事業の結果について市ホームページ、友愛会ブログに掲載した。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」
協働相手の名称	おうめ猫の会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年7月2日(土)、令和4年11月19日(土) 場所：青梅市役所(正面玄関前)	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的 責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。	
(4) 実施内容(実績値等) 例年ボランティア団体との協働事業として里親会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は協働事業ではなく、青梅市後援での実施となった。	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 7月、11月ともに10人程度	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成25年度から新たな事業として提案があった。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 当日の運営 行政側： 広報等による周知、会場準備	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>市の西部の市民にも里親会に来てもらえた。</p> <p>(行政側)</p> <p>ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>里猫の数の確保が年々難しくなっている。</p> <p>行政側</p> <p>今後、里親会を他のイベントの会場で開催することについて協働団体と協議し、里親会の継続と来場者の増加を図りたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	動物愛護週間イベント in おうめ
協働相手の名称	おうめ猫の会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年9月13日（火）～9月27日（火） 場所：青梅市役所本庁舎1階	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり（規模縮小）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成24年11月）
(2) 事業の目的 隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 隔年ごとに実施する動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。	
(4) 実施内容（実績値等） 令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講演会を中止し、パネル展示を実施した。	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人程度
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 平成24年度から新たな協働事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 活動紹介等に関する展示ブースの設営 行政側： 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。</p> <p>(行政側)</p> <p>ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、団体の活動内容も紹介することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>パネル展示の改善をしたい。</p> <p>行政側</p> <p>令和4年度は講演会および映画上映会を中止したが、動物愛護に関する講演会または映画会の内容については、市民がより関心を持てるものを選定する必要があると思われる。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業
協働相手の名称	いのちを考える会・青梅
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金） 場所：市内各所	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり（規模縮小）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成25年12月）
(2) 事業の目的 公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 実施予定頭数 170頭	
(4) 実施内容（実績値等） 手術実施頭数 80頭	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 11人
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側： 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>捕獲器の設置とTNR活動の許可を、どこに申請すればいいのか、団体では判断できない場所でも、行政が動くことで活動の許可を得ることができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。また、飼い主のいない猫を見かけることが減少しているように見受けられる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>メディアやSNSなどにより、広く世の中に知られてきて、個人で活動を行う市民が増えてきていると感じる。意欲のある市民に、適切なアドバイスとサポートを行うことが、今後求められると思う。</p> <p>行政側</p> <p>市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対しても、餌やり方法や地域猫活動等と併せて広報等を活用して継続して周知するよう努めたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業
協働相手の名称	おうめ猫の会
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日 場所：市内各所	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり（規模縮小）
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成25年12月）
(2) 事業の目的 公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 実施予定頭数 5頭	
(4) 実施内容（実績値等） 手術実施頭数 1頭	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 10人
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側： 公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>協働事業の効果により市内の野良猫の数が減った。</p> <p>(行政側)</p> <p>行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った。また、飼い主のいない猫を見かけることが減少しているように見受けられる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>猫の捕獲や病院の送り迎えのできる会員さんが少ない。</p> <p>行政側</p> <p>市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対しても、餌やり方法や地域猫活動等と併せて広報等を活用して継続して周知するよう努めたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	生物多様性人材育成講座
協働相手の名称	美しい多摩川フォーラム
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：8月4日 場所：ネッツたまぐーセンター	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（ ）
(2) 事業の目的 平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、次世代のリーダー育成を目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、次世代のリーダー育成を目的とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 生物多様性に関する講座を開催	
(5) 事業経費(決算額) 16,218円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 1人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、市から市民団体に協働提案した。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 講師の提供。講演資料の作成。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報、小学生向けチラシによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>講師を紹介し、講座開催を告知するなど、役割分担を明確にして実施した。「広報おうめ」のPR効果は大きく、集客につながった。</p> <p>(行政側)</p> <p>内容、運営体制ともに安定感がある。コロナ禍における事業として、参加者は少人数ではあるが、これまでできていなかった計画の推進にあたり、実施することに意義があったと言える。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>新しい事業として実施したが、わかりやすい講義で、初めて受講する小学生にとっては有意義であったと思う。今後については、同一内容で回数を増やしていくのか、シリーズ化して内容を充実させていくのか検討していく必要がある。</p> <p>行政側</p> <p>座学だけではなく、体験型事業にする等、例年実施するにあたっては工夫が必要。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、小学校にチラシを配布して参加者募集。

協働事業評価シート（表）

事業名称	丸ごと霞川を遊びつくそう
協働相手の名称	霞川くらしの楽校
担当課・係	環境政策課管理係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：6/11 7/23 9/17 10/15 3/4 場所：霞川 天本橋付近	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期()
(2) 事業の目的 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。	
(4) 実施内容(実績値等) 年間を通じた、身近な霞川をフィールドとした様々な自然体験(水遊び、魚捕り、ザリガニ捕り、散策、ワークショップ、野鳥観察)	
(5) 事業経費(決算額) 95,176円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 7人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 通年の様々な川遊びを子どもたちに継承したいとの提案があり、実施した。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側： 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画 段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施 段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了 後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2) 協働による効果 (市民側) ①募集が「広報おうめ」でありインパクトがある。②事業遂行には外部の協力が必要(安全対策の為の会場周辺の草刈り・近接農家への挨拶)であるが、市との協働事業と言うことで快く協力してくれる。			
(行政側) 事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。			
(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください) (市民側) 応募人数が減ってきている。募集は「広報おうめ」で行っていますが、募集する事業がどんなものか、その内容を知ることによって興味をそそられるのではないかと。募集時短くても良いが「事業の内容が分かる」ような文々を入れるスペースが欲しい。又委託金は事業終了後の支払いになるが、調達するものは、事業開始以前の時点でありすべて持ち出しになります。会は利益を求める活動をしている訳で無く軍資金はあまり無い。一時的に個人が立て替えておく場合がある。出来れば委託金の半分でも良いので、前渡金の形で支払っていただけるとありがたい。			
行政側 特になし。			

4 情報提供の方法

広報おうめにて参加者募集

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業
協働相手の名称	青梅点訳グループ
担当課・係	清掃リサイクル課ごみ減量推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日 場所：市内	※新型コロナウイルス感染症による影響 <div style="color: red; text-align: center;">1、影響なし</div>
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成21年4月）
(2) 事業の目的 視覚障害者等のうち、点訳された「資源物・ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 希望者全員に配布する。	
(4) 実施内容（実績値等） 令和5年度版「資源物・ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績3人。	
(5) 事業経費（決算額） 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力
(2) 協働相手の団体からの参加人数 6人
(3) 協働の提案者 団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 資源物・ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側： 広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>決められた期限を守り、カレンダーを納めることができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>点訳を行うには専門的な知識も必要となる事から、点訳を専門とするグループとの協働は大いに効果がある。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>ボランティアグループとしての役割は果たせた。 点字図書・声の広報の利用者の方に、点字版資源物・ごみカレンダーの存在を周知することができればより多くの方に利用していただけるのではないかな。</p> <p>行政側</p> <p>点訳グループおよび利用者の意見を聞き、さらに多くの必要とされる方に使用していただけるよう、周知の場の拡充を行う。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

協働事業評価シート（表）

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア
協働相手の名称	いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・青少対第8地区委員会)
担当課・係	公園緑地課わくわく公園係(公園管理係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：大塚山いこいの森(大塚山公園隣接地)、第四小学校 場所：6月および9月の第1日曜日	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成22年6月)
(2) 事業の目的 みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 予定：年間参加人数 延べ200人 実績：年間参加人数 41人 ※令和4年度は令和5年3月4日の1度のみ実施した。	
(4) 実施内容(実績値等) 大塚山いこいの森園内の樹木(サクラ)への樹名板の設置および、第四小学校校庭での炭焼き体験(令和5年3月4日の実施内容)	
(5) 事業経費(決算額) 消耗品費 10,130円、食糧費 9,600円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 41人(自治会:6名、四小:35名)	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 地元からの要望にもとづき、針葉樹を伐採し、広葉樹化を図った際に、市民ボランティア等と協働して清掃、下草刈り等の管理作業を行うこととした。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 管理区分の清掃および下草刈り、樹木への樹名板の設置作業 行政側： 管理区分の作業計画および施設全体の管理計画の作成	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>いこいの森を第四小学校および地域住民の自然体験および学習の場となるよう良好な状態に保全することができ、作業を通じ地域の連帯感の醸成が図れる。 植栽樹木の生育状況も良好であり、森として形成されてきている。</p> <p>(行政側)</p> <p>ボランティアと協働で清掃および下草刈り等の管理作業が実施でき、快適な生活環境の創出と市民の自然体験や学習の場として提供することができる。また、作業には、家族連れの方も多く参加している状況から、いこいの森を身近な場所として捉えていただいていると感じられる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>協働団体側から活用内容にマンネリ化が否めず、見直しについての意見が寄せられたため、令和5年3月4日の活動再開時は、樹名板の取付や、四小校庭での炭焼き体験と「楽しみ」要素を取り入れた内容に試験的に変更した。協働団体側からは好意的な反応が寄せられたことから、今後もこうした要素を取り入れた実施内容としていきたい。</p> <p>行政側</p> <p>新型コロナウイルス感染症が第五類感染症に移行したことから、令和5年度は本格的に活動を再開したい。 活動内容や活動時期については協働団体との協議に基づき、以前の草刈り作業に囚われず、新たな取り組みを行い、より多くの市民にとって意義ある活動となるよう検討を重ねたい。</p>			

4 情報提供の方法

回覧

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	緑地管理ボランティア
協働相手の名称	緑地管理ボランティア
担当課・係	公園緑地課わくわく公園係(公園管理係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：毎月第3土曜日(8月を除く。) 場所：永山公園内ボランティア管理緑地ほか	※新型コロナウイルス感染症による影響 5、影響あり(中止)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成15年6月)
(2) 事業の目的 下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことにより、公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年間参加人数(予定延べ100人) ⇒ 実績:参加人数 0人	
(4) 実施内容(実績値等) 下草刈、除伐、枯損木伐採および萌芽更新等を目的とした間伐等	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力
(2) 協働相手の団体からの参加人数 0人(登録人数13人)
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 公園・緑地の大切さを実感しつつ、行政と一体となった公園・緑地の利用推進、緑の保全および育成、また、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ることを目的として制度を設置した。
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 下草刈、除伐、枯損木伐採および萌芽更新等を目的とした間伐等の作業 行政側： 実施計画立案、参加者への周知、用具の準備・貸与、飲料・食料の配布

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	設定した目標が達成された	1	1
	協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

(2) 協働による効果

(市民側)

例年、永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を実施しているが、新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年度から作業を中止している。令和4年度は年度当初に青梅市と話し合いの場を持ち、再開後のあり方を検討することとしたが、感染状況が好転しなかったことから実施することができなかった。

(行政側)

永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施することにより、ハイキングコースからの景観や解放的な空間が確保でき利用者へ快適な環境を提供できる。
しかし、例年、永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を実施しているが、新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年度から作業を中止している。令和4年度は年度当初に市民側(参加者)と話し合いの場を持ち、再開後のあり方を検討することとしたが、感染状況が好転しなかったことから実施することができなかった。

(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

(市民側)

新型コロナウイルスが第五類感染症に移行したことにより、活動を再開し、既存の会員に多くの参加を呼びかけた。また、参加会員の高齢化や毎回の参加者数が硬直化していることから、これから活動内容を充実していくには、新規会員の募集を行っていききたい。

加えて、管理区域を有効に活用していただくための園路整備を行う必要があるが、除伐が済んでいる区域の下草刈り作業も同時に行っていかなければならない中、基盤となる除伐を早期に終了させていきたい。

行政側

登録者はある程度いるものの参加者が一定の人となっていることから、一度登録者の整理を行ったところ人数の減少がみられた。会員の高齢化も進んでいることから、会員募集(随時)を行い、若い世代の参加者を取り込むことに加え、活動内容の見直しを必要とする。

新型コロナが5類感染症に移行したことに伴い、活動を再開したい。また、従来の下草刈り等の活動内容に囚われず、今後の活動のあり方について市民側と協議を重ねながら検討したい。

4 情報提供の方法

チラシ、活動場所での看板設置

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅の森保全プロジェクト(青梅の森保全事業)
協働相手の名称	青梅の森保全プロジェクト会員(西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅さとやま散歩の会)
担当課・係	公園緑地課緑地管理係(緑化推進係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月から令和5年3月 場所：青梅の森	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年10月)
(2) 事業の目的 青梅の森およびその周辺で市が管理する地域において、保全活動等を行う各種団体等と市が協働で青梅の森保全事業を行い、市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等のレクリエーションの場として活用することを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 青梅の森事業計画にもとづく管理、運営を行う。 動植物の観察やウォーキング、保全活動等を通して多くの市民に自然と触れあってもらい、自然環境等に対する理解と意識の向上を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅の森内の下草刈り、除伐、間伐、ヨシ抜き・ヨシ刈り作業、野鳥観察、ナラ枯れ対策	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 西多摩自然フォーラム、NPO法人青梅りんけん、日本野鳥の会奥多摩支部、森林ボランティア森守会、青梅の自然と環境を守る会、青梅の森ひさかきの会、青梅さとやま散歩の会 約50名
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 市民や関係団体等と連携した青梅の森の管理運営により市民が自然と触れ合える場として活用していくため。
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 企画・運営 行政側： 事務局・運営

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>杣保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。 杣保プロジェクト共同企画により青梅の森の普及啓発を図ることができた。 杣保プロジェクト参加団体の活動および協働作業により、青梅の森の保全・整備が進んだ。</p> <p>(行政側)</p> <p>台風等による被害や倒木等の報告や、応急的な対応等を迅速に行ってもらうことで、青梅の森での事故発生等を未然に防ぐことができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響等で、杣保プロジェクト協働企画の市民向けイベント等が開催できていない。 青梅の森で市民参加の活動を進めるには、トイレの設置が課題である。</p> <p>行政側</p> <p>青梅の森の保全・整備事業について、各ボランティア団体会員の高齢化が進んでいる。今後は、新規会員の加入のお願いや、若い世代の方が積極的に保全活動ができる環境を整える必要がある。</p>			

4 情報提供の方法

杣保プロジェクトを通じた周知

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市見守り支援ネットワーク事業
協働相手の名称	見守り支援ネットワーク事業協定締結事業者
担当課・係	高齢者支援課いきいき高齢者係(地域支援係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日 場所：市内一円	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年5月)
(2) 事業の目的 市では、一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としています。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 市民に安心安全を提供するとともに、孤立死、孤独死等の減少を図る。	
(4) 実施内容(実績値等) 市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 44事業者	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関に情報提供する。 行政側： 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>民生委員や地域において活動する事業者がゆるやかな見守り活動をすることで、見守られている側の高齢者等の地域住民も安心感があり、地域の中で安全安心に生活が営める環境が整う。</p> <p>(行政側)</p> <p>民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができる。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>民生委員に依頼される業務が多くあり、見守り活動に取り組む時間が少なくなっている。 見守りが必要な対象者を精査し、より効果的な見守り活動を行うことが必要と考える。</p> <p>行政側</p> <p>地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ・ホームページ・報道機関へのプレスリリース

5 事業の様子（写真等）

見守り協定を締結した事業者に対し、以下のステッカーを配付している。



協働事業評価シート（表）

事業名称	認知症サポーター養成研修事業
協働相手の名称	全国キャラバンメイト連絡協議会
担当課・係	高齢者支援課包括支援係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日から令和5年3月31日まで 場所：指定場所	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年10月)
(2) 事業の目的 認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目的としている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 令和5年度末までにサポーター養成数1万人を目標とする。	
(4) 実施内容(実績値等) 令和4年度までのサポーター数6,445人	
(5) 事業経費(決算額) 65,121円【旅費(キャラバンメイト研修受講)3,190円、印刷製本費(サポーターカード)921円、消耗品費(オレンジリング)60000円、通信運搬費(オレンジリング送料)1,010円】	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 青梅市登録キャラバンメイト 80人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 都が企画立案および講師役(キャラバンメイト)を養成し、事業に賛同しサポーターを養成している。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族の方を温かく見守り支援する応援者となる。 行政側： サポーター養成講座を養成するための講師(キャラバンメイト)を派遣する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>認知症という病気について理解し、対応のポイントや、どのように接すればいいのかを研修受講者に対して適切に伝えることができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>認知症の人も地域で安心して暮らせる充実したまちづくりが形成される。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>自治会や企業、高齢者を扱う事業所で広く開催し、理解を深めたい。</p> <p>行政側</p> <p>コロナ禍で実施を見合わせている場所(学校、企業、自治会等)にて講座を行い、さらなる受講者を開拓したい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめおよび担当者等への声掛け(自治会、学校、企業)

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市虐待防止ネットワーク連絡会事務
協働相手の名称	社会福祉協議会の代表、民生児童委員会合同協議会の代表、東京弁護士会の代表、ケアマネジャー連絡会の代表、人権擁護委員の代表、事業所の代表
担当課・係	高齢者支援課包括支援係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：年2回開催 場所：青梅市役所会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成18年8月）
(2) 事業の目的 養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談をし、課題を共有することで、解決に向けて多方面の専門職から意見を聴取する。	
(4) 実施内容（実績値等） 1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等	
(5) 事業経費（決算額） 委員報償金 23,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 12人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターに対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。</p> <p>(行政側)</p> <p>①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。</p> <p>②地域や関係機関と連携し、高齢者虐待の早期発見・早期対応、状況に応じて成年後見制度利用への支援を行った。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。</p> <p>行政側</p> <p>虐待通報の徹底化、早期発見により、関係機関が直ちに介入する体制を今後も強化していく。被虐待者への対応はもとより、多様化する世帯における養護者支援に対し、関係機関との連携を密に対応する。高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動を行う。</p>			

4 情報提供の方法

ホームページ

協働事業評価シート（表）

事業名称	入門・初級手話講習会
協働相手の名称	青梅市聴覚障害者協会
担当課・係	障がい者福祉課認定サービス係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月11日～令和5年1月25日（計28回） 場所：青梅市福祉センター等	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり（実施方法変更）
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（ 年 月）
(2) 事業の目的 ・一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること。 ・手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進すること。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 初級手話講習会終了後、中級手話講習会（定員25人）に移行し、より学びを深め、手話サークル等に属し活動することで、聴覚障害者の社会参加等に寄与していく。	
(4) 実施内容（実績値等） ・入門手話講習会 3回（1回2時間）受講者数31人 ・初級手話講習会 25回（1回2時間）受講者数25人	
(5) 事業経費（決算額） 221,600円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 ろう講師1名 健アシスタント2名	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市聴覚障害者協会の事業として実施されていたが、従前より協力依頼があったため。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 講習会の運営 行政側： 会場の確保・広報および参加申し込み窓口・講師報償金の助成	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>障害者差別解消法の施行に伴い、より多くの市民に手話を学んでもらい、聴覚障害者への理解を広めるために「手話は言語」であることを強調し、更に理解を深めていく。</p> <p>協働事業のお陰で手話講習会会場の予約手続きや透明マスク支援などを行っていただき、全25回の手話講習会をスムーズに行うことが出来たこと。今後も聴覚障害者の社会参加促進のために手話講習会を継続していきたい。</p> <p>(行政側)</p> <p>初級講座、中級講座を隔年で実施し、初級を終了した方が、中級コースへ継続され、手話サークルに入会したり、地域密着した活動につながるなど、聴覚障害者のコミュニケーション支援の担い手養成の役割を担っている。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>令和4年度初級講習会を実施出来た事に感謝申し上げます。更に聴覚障害者とのコミュニケーションを深めることを目的に、2025年11月実施のデフリンピック東京に向けてボランティアや広く知られるよう努めていきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことを受け、今後は1回あたり90分で計30回の実施に戻す。ご協力、ご対応を宜しくお願いします。</p> <p>行政側</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、手話において大切な口形が見えるよう、透明なマスクを取り入れ、感染症対策を講じながら開催した。今後はマスクの着用などは個人の判断となるが、引き続き感染対策に留意して安全に講習会を開催できるよう努めていく。また、手話を学びたいという意欲を持った方がより多く参加できるよう、開催時間等の検討を続けていく。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

協働事業評価シート（表）

事業名称	第51回おうめ健康まつり
協働相手の名称	【共催】青梅市三師会 【協賛】青梅市薬業会、青梅市接骨師会、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩地区協議会、西多摩地区保護司会青梅分区、西東京農業協同組合、青梅市民生児童委員合同協議会、他
担当課・係	健康課健康推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： - 場所： -	※新型コロナウイルス感染症による影響 <div style="color: red; text-align: center; font-weight: bold;">5、影響あり(中止)</div>
1、単年度事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)	
(2) 事業の目的 健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 自分の健康は自分で守るという自覚をもって健康づくりに取り組むためには、保健衛生に関する知識が必要である。おうめ健康まつりにおいて医療関係者による保健衛生知識の普及啓発を行い、健康に対する意識を向上させ、より効果的に市民の健康づくりを促進させること。	
(4) 実施内容(実績値等)	
(5) 事業経費(決算額) 0円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 0人
(3) 協働の提案者
(4) 協働の理由・きっかけ 市民の健康増進
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 医療関係者等の立場から健康づくりに関する専門知識を提供する。 行政側： 健康づくりに関する情報を提供し保健衛生知識の普及啓発を図る。

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	3	3
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた		
	協働相手の自主性・自立性は尊重された		
	事業実施は円滑になされた		
事業終了後	設定した目標が達成された		
	協働で行うことにより効果がある事業だった		
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った		
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2) 協働による効果 (市民側) (行政側)			
(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください) (市民側) 行政側			

4 情報提供の方法

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市親子ふれあい事業ボッチャ大会
協働相手の名称	青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会(11地区)
担当課・係	子育て応援課児童・青少年係(子ども家庭支援課青少年担当)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年2月5日 場所：住友金属鉱山アリーナ青梅	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成15年1月)
(2) 事業の目的 「親子ふれあいボッチャ大会」は、青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、大会に親子で参加することで、ふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 大会を通して、地域での異年齢者との交流が期待でき、チームを組むことにより、思いやりをもち、団結力を養える。応援をすることにより、他人を認め、敬う気持ちを育てる。団体の継承による次回への思いと実現、親子参加による家族の絆の再認識をする等の体験をする。	
(4) 実施内容(実績値等) 市内在住の小学生・中学生・保護者、市内在住・在勤・在学の一般市民および大会役員等 38チームが参加	
(5) 事業経費(決算額) 513,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回大会」が開催された。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側： 事務局として、大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会や組合せ抽選会等の準備を行うとともに、大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果			
(市民側)			
例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市広報・HP等による参加チームの募集および受付事務ならびに実行委員会等の開催事務が円滑に行われている。			
(行政側)			
大会前日の会場設営や当日の出場選手・応援者等大会参加者の整理、誘導について役員や実行委員が協力し円滑に行った。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
(市民側)			
役割分担を話し合う時間が足りなかった。当日のスタッフとの打ち合わせも含め、もう少し綿密な打合せを行う。			
行政側			
役割分担を話し合う時間が足りなかった。当日のスタッフとの打ち合わせも含め、もう少し綿密な打合せを行う。			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業
協働相手の名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア
担当課・係	シティプロモーション課観光係(商工観光課観光係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：5月28日から6月26日まで 場所：吹上しょうぶ公園	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上を図る	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド	
(4) 実施内容(実績値等) 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド	
(5) 事業経費(決算額) 消耗品費(ガイド必要物品)44,868円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 31人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 来園者へのサービス向上を図る	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： ガイドの実施 行政側： 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>自分達が参加したい、やってみたいという気持ちを理解してくれていた。</p> <p>(行政側)</p> <p>ガイドさんがお祭り期間中にいることで、園内の花しょうぶを満遍なくお客様にお伝えすることができ、何か花しょうぶのご質問があった際も、円滑にお答えが可能となり、より花しょうぶを、ついでには吹上しょうぶ公園を知ってもらえた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>公園の利用者への安全管理等、分担を明確化する必要が少しあるかもしれません。</p> <p>行政側</p> <p>コロナの影響で園内飲食禁止の状況で開催したが、通常開催と変わらずに行えた。その中で、ガイドさんもお祭りの開催状況を把握しつつ、花の紹介をお客様に紹介することができたと感じる。コロナのような異例の際に、しっかりとしたマニュアルを行政側から、迅速に今後も提示できるよう心掛ける必要がある。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、行政メール、Twitter

協働事業評価シート（表）

事業名称	梅の公園ガイドボランティア
協働相手の名称	市民
担当課・係	シティプロモーション課観光係(商工観光課観光係)

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：3月11日、12日、18日、19日 場所：梅の公園	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 来園者の満足度の向上	
(4) 実施内容(実績値等) 公園内の梅その他の植物、施設等の案内および説明	
(5) 事業経費(決算額) 講師報償金48,000円、消耗品費378円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 17人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 梅の公園来場者へのサービス向上	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： ガイドの実施 行政側： 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3

5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

(2) 協働による効果

(市民側)

講習会の講師はよりハイレベルで知識の習得にとっても役に立ちました。一緒に歩いて、ご案内するガイドもそれなりに喜ばれますが、定点案内(梅の木の前)で待っていて、反強制的ではありますが、鴛鴦等 梅の花を紹介することも好評でした。

(行政側)

市民の方がボランティアでガイドを行い、青梅市の梅郷地域や梅の公園等について来場者に興味を持ってもらうことができた。当該活動により再来園への動機を促せるよう効果的なアピールの一つとなることを期待したい。

(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

(市民側)

今回は、規模縮小の為、ガイドの期間が短かったので、残念ではあった。週末天気も悪かったので、観梅するお客さんが少なかったことで、ガイドの希望もなかった。元の梅郷に戻るには相当年数が必要ですが、勉強とガイド知識だけは継続して努力が必要だと感じています。ボランティアコートは目立つ色がいいと思います。グリーンとか白または、紫色がガイドとして分かり易いと思います。

行政側

ガイドボランティアを対象とした講習会の講師が今回2回目でも同人であったためか、一部のベテランのガイドボランティアから内容が重複しているとの意見があった。一方、他多数のボランティアからは好評でもあったため、講師の選定や講習開催の方法、講習のあり方についての課題はあるかもしれないが、慎重に検討をしていく必要がある。また、ガイド自体のニーズや在り方、存在意義についても検討する余地はある。(音声ガイドやQRコードによるガイド等々にする)

4 情報提供の方法

広報おうめ

協働事業評価シート（表）

事業名称	森林ボランティア育成講座
協働相手の名称	NPO法人 青梅林業研究グループ
担当課・係	農林水産課林務水産係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： 令和4年5月21日、6月11日、7月9日、9月10日、10月8日、11月12日、12月10日、令和5年1月14日、2月11日、3月11日(計10回) 場所：	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成14年5月)
(2) 事業の目的 森林ボランティアの育成を図る。平成22年度からは杉並区との共同開催となっている。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年間10回の講座開催。	
(4) 実施内容(実績値等) 下刈り、間伐、道づくり、枝打ち等。 講座受講者延べ166人(青梅市41人、杉並区125人)	
(5) 事業経費(決算額) 森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額1,650,000円、バス借り上げ料140,470円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 4、事業委託	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 毎回10～21人程度	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 講座内容の決定、資機材の準備、当日の実技指導 等 行政側： 受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>青梅の山林の状況を理解しながら、森林作業を体験することにより、森が変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れていくことの大切さがわかってもらえた。今後も森林保全にかかわっていききたい。青梅の森をはじめ、作業内容にあった市有林で、様々な作業ができることは、受講生にとって良い環境ができています。また、青梅の森の保育保全も進んだ。</p> <p>日本の山林の状況を受講生によく理解してもらい、森林作業を体験することにより、森が変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れて行くことの大切さがわかってもらえた。今後も森林保全に関わっていききたい。青梅の森の保全活動も進んだと思う。青梅の森をはじめ、作業内容にあった市有林で、様々な作業ができることは、受講生にとって良い環境ができています。また、青梅の森の保育保全も進んでいる。</p> <p>(行政側)</p> <p>青梅林業研究グループには、森林施業に対する深い知識や技術を持ち合わせた者が多く在籍し、本講座以外にも多くの場で指導を行っており委託先としてふさわしく、受講生からは親切・丁寧な指導に対して感謝の言葉が多く寄せられている。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>今後も継続して森に関わっていける場を考えて欲しい。また、さらに技術を勉強できる機会があればいいと思う。より多くの方が森林保全に関わっていけるといいと思う。全10回の講座で、受講生の欠席者が少なくなるようにプログラムの充実を図りたい。この講座を受講することにより、さらに森林に興味を持ち、スキルアップができるよう、またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。</p> <p>行政側</p> <p>今後は、受講生の高齢化問題や受講生の欠席者の増加などに対して、魅力的なカリキュラム等で講座自体を活性化することを協議する場を設ける。また、260人近くになった修了生に対する活動の場の提供や活動内容の支援も重要な課題となっている。</p>			

4 情報提供の方法

--

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会
協働相手の名称	青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会 (※民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体)
担当課・係	住宅課住宅政策係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月29日(土) 場所：福祉センター2階集会室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年1月)
(2) 事業の目的 市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕・維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 相談料無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。	
(4) 実施内容(実績値等) 相談件数 24件	
(5) 事業経費(決算額) 29,581円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催
(2) 協働相手の団体からの参加人数 15人
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。</p> <p>(行政側)</p> <p>住宅に関する様々な相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空き家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。</p> <p>行政側</p> <p>さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 特に継続空家の所有者など相談会に参加してほしいターゲットに対し、相談会を利用していただく効果的なPR方法を検討し、実行に移す必要がある。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、自治会回覧

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市定例住宅相談会
協働相手の名称	青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会 (※民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体)
担当課・係	住宅課住宅政策係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：10月を除く毎月第3木曜日 場所：市役所会議室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成26年7月)
(2) 事業の目的 市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 無料の住宅相談会を開催し、市民の住宅に関する問題や悩みを解決する。	
(4) 実施内容(実績値等) 開催回数 11回 相談件数 17件	
(5) 事業経費(決算額) 25,844円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 15人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 相談会当日の相談員 行政側： 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRにつながった。</p> <p>(行政側)</p> <p>住宅に関する相談窓口を開設することにより、相談者の悩みを解消することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空き家の相続問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んで頂けたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。</p> <p>行政側</p> <p>さらに相談者を増やすための効果的な周知方法等を検討する。 特に継続空家の所有者など相談会に参加してほしいターゲットに対し、相談会を利用していただく効果的なPR方法を検討し、実行に移す必要がある。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、自治会回覧

協働事業評価シート（表）

事業名称	学校教育ボランティア
協働相手の名称	教育ボランティア
担当課・係	指導室指導係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：通年 場所：市立小・中学校	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
1、単年度事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的 青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 地域人材を活用した学校教育活動の充実	
(4) 実施内容(実績値等) 学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態
3、事業協力
(2) 協働相手の団体からの参加人数 参加人数:312人
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 学校の依頼にもとづく支援 行政側： 学校への活用奨励

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
	協働相手は適切だった	5	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>安全な登下校を支援することができた。 図書室の整備を行い、適切な学習環境を提供することができた。 児童生徒の基礎学力の定着に貢献できた。 図書室前の掲示を季節や行事に応じて更新し、子供たちが季節感や伝統文化に触れる機会となった。 発達段階や子供たちの興味関心を生かした読み聞かせを行うことで、子供たちの読書に対する意欲が高まった。</p> <p>(行政側)</p> <p>地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。 図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。(登録 312人) 地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。 教員だけでは補うことができない点に支援を受けることで、教員の負担軽減に繋がっている。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、活動自体や活動内容が制限される。 学校の都合で日時が限定される。 あくまで、善意によった活動であるため、次年度以降も質の高い活動ができるのか人材の確保に不安定性がある。 ボランティア活動が保護者に伝わりづらい。人材を発掘するためにも広報活動の充実が必要である。</p> <p>行政側</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、活動自体や活動内容が制限される。 人材の十分な確保、広報活動。 ボランティア人材の発掘。 学校によって活用実績・活用人数に差がある。</p>			

4 情報提供の方法

学校発信での募集

協働事業評価シート（表）

事業名称	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2022～
協働相手の名称	青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア
担当課・係	社会教育課生涯学習推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月14日(土)、15日(日) 場所：釜の淵公園およびその周辺施設	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年5月)
(2) 事業の目的 各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 目標来場者・参加者：晴天時3,500人以上、雨天時2,500人以上	
(4) 実施内容(実績値等) 出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、お話会、体験イベント、市内の団体・企業による飲食物販売。 多目的ホールの一部出演をオンラインで配信した。 来場者・参加者 3,328人	
(5) 事業経費(決算額) 592,930円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 1、政策立案・事業企画等	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 企画運営 行政側： 事務局	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>感染症対策を十分に行いながら3年ぶりの新緑祭を実施することができた。運営に課題は残ったが、久しぶりのステージに出演者はみな嬉しそうに出演していたのが印象的だった。</p> <p>(行政側)</p> <p>ひさしぶりの開催となったが、新緑祭全体の準備や片付けにも各団体の実行委員に協力してもらい、協働を推進することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>前年度、前々年度中止からの3年ぶりの開催と初めてネッツたまぐーセンターを使っでの開催だったため、かなり変更が多く、混乱が生じた。学生ボランティアもどう動いてよいのかわからない学生が散見された。来年度は今回の反省点を生かし、改善して実施をしたい。</p> <p>行政側</p> <p>今年度の反省を生かし、来年度も実行委員会の運営がさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていきたい。市民と協力し合いながら釜の淵公園、文化交流センター双方を使っでの新緑祭を創り上げていきたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	家庭教育講演会
協働相手の名称	NPO法人青梅こども未来
担当課・係	社会教育課生涯学習推進係

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間： ①令和4年7月9日②令和4年9月3日③令和5年1月29日 場所： ①受講者自宅(zoomによるオンライン講演会)、②③市役所	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成22年7月)
(2) 事業の目的 家庭教育の充実を図る。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年3回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。	
(4) 実施内容(実績値等) ①子どもとネット・スマホとの適切な関わり方～SNS・ゲーム依存の実態とその予防・対応をどのようにおこなうか～ ②子どもの未来につながるお金の教育 ③悩んでいませんか？いまだきの思春期の子ども～親と子のすれちがいをなくそう～	
(5) 事業経費(決算額) ①講師報償金 26,000円 ②講師報償金 20,000円 ③講師報償金 20,000円	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 講演会各回10人前後	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 子育て現場の声を反映した講演会とするため	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 保護者への周知、講師等の情報提供、子どもの保育、当日受付・手伝い 行政側： 周知、講師交渉、当日運営	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2) 協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせの段階から講演会の内容や時期についてしっかり話し合い、毎回講師との交渉や広報、会場予約などしていただき今年も3回開催できた。 ・子育て中のスタッフに今聴きたい内容などを調査することにより、子育て世代を対象にタイムリーな内容の講演会が開催できた。 ・新型コロナウイルス感染症が少しずつ収まってきたので、2回は対面での講演会が開催でき、参加者の心に直接届く内容となった。 <p>(行政側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての現場に関わる市民と協働することで、市民の求める内容の講演会を実施できた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に薄れてきたため3回のうち2回は対面開催で行った。講師の生の声を届けることで、より参加者に伝わる内容となった。 			
<p>(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数が増えるよう、日時の設定や周知について一緒に考えていきたい。 <p>(行政側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的を持った仲間と出会える会場に集まる形式と気軽に参加できるオンラインを活用した形式を両方実施し、それぞれの特性を活かした講演会を開催したい。 ・参加者増加のための周知方法を検討していきたい。 			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、行政メール、ツイッター、LINE、チラシ配布

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート（表）

事業名称	この指とまれ！朗読会
協働相手の名称	リーダーズあおうめ
担当課・係	社会教育課図書館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年5月 場所：中央図書館 多目的室	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年6月)
(2) 事業の目的 朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 朗読参加者等の確保	
(4) 実施内容(実績値等) 朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 2、事業共催	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 6人	
(3) 協働の提案者 2、団体等からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側： 企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響のため、出演者、入場者とも少なかった。</p> <p>(行政側)</p> <p>コロナ禍での事業開催について、市民と話し合い、規模を縮小して実施することができた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>家庭の事情などにより、将来的に団体が今後も現在のレベルで活動を継続するのが困難になることが予想される。</p> <p>行政側</p> <p>市民側の協力が得られない状態に陥った場合には、事業の規模や実施方法を検討し直す必要がある。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ

協働事業評価シート（表）

事業名称	中央図書館整架ボランティア
協働相手の名称	図書館整架ボランティア登録者
担当課・係	社会教育課図書館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日 場所：中央図書館	※新型コロナウイルス感染症による影響 3、影響あり(実施方法変更)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（平成19年 月）
(2) 事業の目的 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備(整架、配架、資料清掃)	
(4) 実施内容(実績値等) 整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理を行っている。	
(5) 事業経費(決算額) なし	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力
(2) 協働相手の団体からの参加人数 延べ94人(登録者11人、年間活動日数53日)
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担 市民側： 図書の整架・清掃 行政側： ボランティアに対する社会的活動の場の提供

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>令和4年度から感染対策を実施しながら活動を再開することができた。 図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。</p> <p>(行政側)</p> <p>感染対策を実施することで活動を再開できた。活動を実施したことにより利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、業務負担の低減にもつながった。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>図書館側とより活発な意見交換をすることにより、効率的な作業を行えるようにする。 また、ボランティアの登録者が減ったので新たに活動に参加してくださる方を募っていただきたい。</p> <p>行政側</p> <p>ボランティア側の疑問点を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。 さらに、自立的活動ができるようサポートする。(わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等) なお、新規ボランティアの募集は時期をみて実施できるよう調整していきたい。</p>			

4 情報提供の方法

特になし

協働事業評価シート（表）

事業名称	おはなしボランティア
協働相手の名称	青梅おはなしの会、おはなしの会 ころりん、絵本研究会
担当課・係	社会教育課図書館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日 場所：中央図書館	※新型コロナウイルス感染症による影響 2、影響あり(規模縮小)
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的 市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上	
(4) 実施内容(実績値等) おはなし会17回(中央)、12回(今井)、3回(梅郷)、2回(新町)、12回(青梅)、絵本の森12回、大人のためのおはなし会2回、新緑祭1回、出張おはなし会4校42回、絵本のべんきょう会6回、ブックスタート0回、おはなしにちょうピーナッツ12回、初級おはなし学習会7回、計128回	
(5) 事業経費(決算額) 33,410円 絵本のべんきょう会講師報償金(6,682円×5回) 36,751円 初級おはなし学習会(3,341円×5回×1人、3,341円×6回×1人)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 延べ279人	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会への参加、実演 行政側： おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会の開催	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	4
	協働相手は適切だった	5	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	設定した目標が達成された	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>感染症対策として定員が少なくなったが、図書館と協力しておはなし会を実施できた。学校におけるおはなし会等、おはなしを届ける機会が増えて良かった。</p> <p>(行政側)</p> <p>ボランティアの方と、プログラム、運営方法を十分に話し合ってから、おはなし会を実施できた。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>これからも子どもたちに良い読書体験ができるよう協力したい。</p> <p>行政側</p> <p>継続した活動機会の確保に努めたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ

協働事業評価シート（表）

事業名称	青梅市吉川英治記念館 秋のライトアップと夜間開館
協働相手の名称	NPO法人青梅吉野梅郷梅の里未来プロジェクト
担当課・係	文化課吉川英治記念館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年10月15日から10月30日まで 場所：吉川英治記念館	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(検討中)
(2) 事業の目的 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 夜間開館を実施することにより、吉川英治記念館を広く周知する。	
(4) 実施内容(実績値等) 吉川英治記念館の開館時間は、午前10時から午後5時までのところ、母屋と庭園をライトアップし午後8時まで夜間開館を実施した。 午後5時以降の来館者数 100名 (15日(土)12名、16(日)5名、21(金)42名、22(土)13名、23(日)9名、28(金)7名、29(土)6名、30日(日)6名)	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ NPO法人青梅吉野梅郷梅の里未来プロジェクトにライトアップのノウハウがあるため。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： ライトアップ機材の青梅市観光協会から無償借用および設営などのコーディネート 行政側： ライトアップ会場の提供、周知、運営全般	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>吉野梅郷地区に多くの方が訪れてもらうきっかけとしたい。</p> <p>(行政側)</p> <p>吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうきっかけとしたい。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>新型コロナの影響により、他所で実施しているイベントの中止や縮小もあり、照明器具を必要な期間・台数で借用できたが、他所での使用があれば使用できない可能性もあるため、開催日程の調整が必要である。</p> <p>行政側</p> <p>新型コロナの影響で自粛していた行事が再開されてきたこともあり、他団体が実施している事業と足並みをそろえた開催時期について検討し、相乗効果により来館者数の増加に繋げたい。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、市ホームページ、行政メール等

協働事業評価シート（表）

事業名称	地域連携展示『五月人形展』
協働相手の名称	市民
担当課・係	文化課吉川英治記念館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年4月29日から5月22日まで 場所：吉川英治記念館	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（令和5年4月）
(2) 事業の目的 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地域の方々などから五月人形などをお借りし、母屋に展示することにより、吉川英治記念館を知ってもらうための契機とする。	
(4) 実施内容（実績値等） 出品者10組・展示総点数21点（内11点寄贈） ・兜飾、鎧飾、祝太刀、破魔矢飾、甲冑など 【期間中来館者】639名	
(5) 事業経費（決算額）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 吉川英治記念館を知ってもらう機会を創出するため。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： 五月人形等の展示協力 行政側： 五月人形等展示、周知、運営全般	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
(2)協働による効果 (市民側) 吉川英治記念館を盛り上げることに協力したい。 (行政側) 吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうきっかけとしたい。			
(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください) (市民側) 特になし 行政側 展示スペースに限りがあるため、多くの方から提供の申し出あったときの対応			

4 情報提供の方法

広報おうめ、市ホームページ、行政メール等

協働事業評価シート（表）

事業名称	地域連携展示『ひな人形展』
協働相手の名称	市民
担当課・係	文化課吉川英治記念館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和5年2月18日から3月21日まで 場所：吉川英治記念館	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期（令和6年2月）
(2) 事業の目的 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。	
(3) 事業の成果目標（数値目標等） 地域の方々などからひな人形などをお借りし、母屋に展示することにより、吉川英治記念館を知ってもらうための契機とする。	
(4) 実施内容（実績値等） 出品者7組・展示総点数26点（内8点寄贈） ・七段飾り、親王飾りなど 【期間中来館者】1,427名	
(5) 事業経費（決算額）	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 吉川英治記念館を知ってもらう機会を創出するため。	
(5) 協働が開始された段階 1. 計画段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： ひな人形等の展示協力 行政側： ひな人形等展示、周知、運営全般	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>吉川英治記念館を盛り上げることに協力したい。</p> <p>(行政側)</p> <p>吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうきっかけとしたい。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>特になし</p> <p>行政側</p> <p>展示スペースに限りがあるため、多くの方から提供の申し出あったときの対応</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、市ホームページ、行政メール等

協働事業評価シート（表）

事業名称	ガイドボランティア養成講座
協働相手の名称	市民
担当課・係	文化課吉川英治記念館担当

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間：令和4年11月20日、27日、12月11日、18日 場所：吉川英治記念館	※新型コロナウイルス感染症による影響 1、影響なし
2、継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(検討中)
(2) 事業の目的 青梅市吉川英治記念館にて、主に庭園や母屋の案内を行うガイドボランティアを養成し、吉川英治氏を知るきっかけとする。	
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。	
(4) 実施内容(実績値等) 青梅市吉川英治記念館にて、主に庭園や母屋の案内を行うガイドボランティアを養成することにより、学びを活かす場を提供し、ボランティア活動を推進する。	
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3、事業協力	
(2) 協働相手の団体からの参加人数 12名	
(3) 協働の提案者 1、行政からの提案	
(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市吉川英治記念館にて、主に庭園や母屋の案内を行うガイドボランティアを養成し、吉川英治氏を知るきっかけとする。	
(5) 協働が開始された段階 2. 実施段階 その他の場合、具体的に→	
(6) 役割分担 市民側： ガイドボランティア参加 行政側： ガイドボランティア養成講座実施	

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
	協働相手は適切だった	4	4
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	設定した目標が達成された	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2)協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <p>吉川英治記念館を盛り上げることに協力したい。</p> <p>(行政側)</p> <p>吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうきっかけとしたい。</p>			
<p>(3)今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <p>ガイドボランティア団体としての組織化するための体制の確立</p> <p>行政側</p> <p>ガイドボランティアを組織化してもらい、継続的な活動のサポート</p>			

4 情報提供の方法

協働事業評価シート（表）

事業名称	第55回記念青梅マラソン大会
協働相手の名称	青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市スポーツ協会、自治会、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会など
担当課・係	スポーツ推進課スポーツ推進係

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所</p> <p>期間：令和5年2月19日(日)</p> <p>10キロの部 東青梅四丁目～日向和田(折返し)</p> <p>場所：30キロの部 東青梅四丁目～川井(折返し)</p> <p>～青梅市総合体育館前</p>	<p>※新型コロナウイルス感染症による影響</p> <p>2、影響あり(規模縮小)</p>
<p>2、継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(1967年3月)</p>	
<p>(2) 事業の目的</p> <p>①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供</p> <p>②全国からの参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。</p>	
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等)</p> <p>参加者(定員13,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。</p>	
<p>(4) 実施内容(実績値等)</p> <p>ロードレース ①10キロの部:2,391人 ②30キロの部:8,440人 (合計:10,831人)</p>	
<p>(5) 事業経費(決算額)</p> <p>ボランティア弁当:1,595,394円(税込)</p> <p>ボランティア用帽子:1,626,625円(税込)</p> <p>ボランティアコート:4,812,500円(税込)</p> <p>※いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし。</p>	

2 協働の内容

(1) 協働の形態
3、事業協力
(2) 協働相手の団体からの参加人数
1,988人
(3) 協働の提案者
1、行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ
参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(5) 協働が開始された段階
1. 計画段階
その他の場合、具体的に→
(6) 役割分担
市民側： 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃、参加者への医務・救護など
行政側： 道路の占用許可手続、コース、会場設営、施設(更衣所、トイレ等)の整備確保、住民の協力要請と周辺対策等

協働事業評価シート（裏）

3 双方による評価等

		市民側	行政側
計画段階	事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
	協働相手は適切だった	4	5
実施段階	対等な立場での協力関係を築けた	2	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	設定した目標が達成された	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
5 非常によくできた 4 できた 3 ほぼできた 2 あまりできなかった 1 できなかった			
<p>(2) 協働による効果</p> <p>(市民側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で三年ぶり、規模を縮小しての開催であったが、参加者から喜びの声をいただいた大会となった。 ・参加者が青梅マラソンの魅力を再認識するとともに、市民ボランティアを含めた協働者の広範囲な活動で、青梅マラソンへの関心や青梅市民意識を高めることができた。 <p>(行政側)</p> <p>多くのマラソン大会参加者を市民、行政が一体となって受け入れる体制を作ることで、市民が主体となったまちの活性化イベントのひとつとなっている。参加者からは、大会ボランティアや観客の方等、沿道からあたたかい声援がもらえるとの声を多くいただいております、青梅市のPRという意味でも大きな役割を果たしていると考えられる。</p>			
<p>(3) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)</p> <p>(市民側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年ぶりの青梅マラソン開催となり、行政側や協働する各企業・団体における役割の継承が途切れ、協働関係を復活させるまでに長時間を要したことから、行政・各企業・団体内での継承方法を確立する必要がある。 ・この協働体制ができてから、長期間が経過しマラソンを取り巻く社会環境が大きく変化しており、青梅市民を含む多くのボランティアを含めた協働体制を見直す時期にきていると思われる。 <p>行政側</p> <p>ボランティアの確保および人員配置と役割の再検討をする。 参加者が安心して参加できる運営方法の検討をする。 コロナ禍前のような青梅市の魅力発信となる企画・運営の検討をする。</p>			

4 情報提供の方法

広報おうめ、ホームページ、、行政メール、報道機関へのプレスリリース

5 事業の様子（写真等）



令和4年度市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	自由	外遊び型子育てひろば「はらっぱ」	(特非)かぶかぶ山のようちえん	子育て応援課 (子ども家庭支援課)
2	行政 ⑤	和楽倶楽部流ともしびフェスティバル in 梅まつり	和楽倶楽部	シティプロモーション課 (商工観光課)
3	自由	わたしが「楽しむ」とまちがよくなる ～市内の活動の魅力を知って、○○ しよう～	(特非)子どもと文化の NPO子ども劇場西多摩	市民活動推進課

【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

【行政テーマ提案】

市が設定した次のテーマについて、事業を提案するもの

- ①生物多様性戦略の人材育成
- ②ゼロカーボンアクションの推進
- ③市内河川のごみ減量・清掃活動
- ④4Rの推進(特にリユース)
- ⑤梅まつり期間の吉野梅郷地域を盛り上げるイベントの開催
- ⑥空き家問題に関する意識啓発
- ⑦あそぼうよ！青梅(青梅で遊ぼう！学ぼう！体験しよう！)

外遊び型子育て広場「はらっぱ」



- 1 実施団体 特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん
- 2 担当課 子育て家庭支援課
- 3 実施時期 2022年9月～2023年2月 全10回
- 4 参加者 延べ280人
- 5 実施場所 わかぐさ公園
- 6 事業の目的 乳幼児期の親子支援、外遊び・自然体験の機会創出
- 7 役割分担
 - ・団体の役割 外遊び型子育て広場はらっぱの企画・運営
 - ・担当課の役割 広報、内容に関する助言
- 8 事業の効果(どのような地域課題が解決できたか)

子育てがもっとも大変な妊娠期から乳幼児期に、青梅市ならではの自然と公園を生かした子どもの健全育成の場、子育て家庭と地域との繋がりや支援の場を作ることができました。

- ・125名、延べ280回の参加がありました。複数回参加される方もいました。
- ・室内の子育て広場を利用したことがない方が15名参加されました。「室内の広場はちょっと苦手だ」という方も外遊び型だから参加される方は一定数いました。
- ・市外からの参加は14名ありました。奥多摩・羽村・飯能・入間・八王子などでした。こういった自然の中で遊ぶ広場は近隣でもなく、興味を持たれたとのことでした。
- ・複数回参加頂いた方は親同士、こども同士での交流も生まれて地域の友人、仲間として情報交換や交流もなされていました。
- ・参加者の中には、公園での声掛けで参加いただいた方も複数いらっしゃり、この広場を目指して来なくても、「たまたま」通りかかることで広場につながる方もいました。
- ・ボランティアでの読み聞かせを申し出てくださいる高齢者の方がいらっしゃいました。また同じ

曜日・時間帯開催することで、同じように集まれる太極拳の方や、犬の散歩の方、幼稚園の未就園児さんなど、スタッフ・参加者ともに地域の方に顔見知りが増え、交流が生まれました。

・0歳児には初めて外遊びをする方、初めて草の上に下ろすという方も多くいて、同じ年齢の仲間がいること、保育士や子育て支援員と一緒に遊ぶことで、安心して外遊びができるようになったと声をいただきました。「初めて芝遊びをさせて、草を抜いたり土を触ったりとても楽しそうにしている参加できて良かった😊」「土遊びが好きなことを発見できた！またきたい。」「子どもと一緒に土や葉っぱを子どもの真似をして触ってみると新鮮な感覚で面白かったです。自然遊び、これまで赤ちゃんのやり方はいまいちわかりませんでしたが、もっとしたいなと思いました。」などの感想がありました。



・11月には公園緑地課にご協力いただき、普段は管理としてすぐに清掃されてしまう落ち葉を、無理を言って1週間そのまま残していただいた状態で落ち葉遊びをしました。たくさんの落ち葉で思いっきり乳幼児が楽しみました。「落ち葉いっぱい遊べて楽しい時間を過ごせました♡」などの感想もいただき、公園を常時一緒に楽しむ保育士がいて、協力してくださる行政の方がいれば、自然豊かな青梅ならではの公園の楽しさ・あそびをもっと引き出せるのではと感じました。



・助産師の日はそれを目的に来場される方が多く、おっぱいの悩みを相談される方がいらっしゃいました。またストレッチは悩みに関わらず参加者が多く、子育てしながら自分の体のケアができる機会は求められていると感じました。「外でマットを敷いてストレッチはしたことがなかったので、上を見上げると葉っぱのある環境でするのはとても気持ちよかったです。」という感想がありました。



・臨床心理士はお悩み相談会のほか、常時スタッフとしても参加してくれていたため、個別に話しかけられることがあり、話し、じっくりと聞いてもらえることで安心されていたようです。「今日は楽しく学ばせてもらいました。れいちゃんの話もとても参考になりました。」「前はくれよんを食べただけだった子どもが、描いていてうれしかったです。お悩み相談もいい話が聞けたし、断乳がずっと先でいいか！とふんぎれました。ありがとうございました。」「子育ての悩みも今はそれほどでもないけど心がいっぱいになっちゃうときが来たら周りに話してみようと思いました。」などの感想もありました。



・インタープリターの回もそれを目的に来場される方が後半に連れて増えました。「説明のしかたが上手で(声も聞き取りやすかったです)自然と場が盛り上がっていました。ありがとうございました。」「秋の気持ちよい風を意識できる遊びがあって嬉しかったです。」などの感想がありました。



・保育士・子育て支援員が乳児期の子育て支援として平日日中の公園にいる意味も感じました。現在、公園あそびでは、家庭ごとに遊び、こども同士の関わりは積極的には行わない対応が通常です。保育園では発達段階を踏まえた見守りや、子ども同士の育ちを保育士が見ていますが、逆に保護者は0歳から預ける方も増えています。またコロナ禍からの行事の減少

や感染症対策などから、市内の認可保育園の乳児クラスでは、他の親と子とともに交流する機会もほとんどありません(団体でも預けているスタッフがいます)。このような状況から、現在乳児期において、自分の子と子以外の交流を、親同士も一緒にじっくりと見ることが少なくなり、0歳の夜泣きや後追い、1歳の断乳、2歳のいやいや期やトイレトレーニングなどで悩まれる保護者の方も多くいました。(幼児期になるとまた本人から事情など色々と話す子も多くなり、保護者同士も顔見知りが増え交流も増えていくことが多いです)

そこではらっぱでは「おだやかにおおらかに」という雰囲気を持ち、スタッフも含めて親も子も交流する機会をもっていくことで、けんかや物の取り合いも、双方の親と「どうするかな、一緒に見守ってみようね」という声掛けや姿勢を持ってきました。これにより、子の交流による成長の機会を逃さずに、親も一緒にその様子をみながら育ちあっていくことができました。

「今日も気持ちよく遊ばせていただきました。なんてことないことでもほかのお母さんと話せるとすっきりします。いつも貴重な機会を作ってください、ありがとうございます。」「おだやかな雰囲気です、とても楽しかったです。ちっちゃい子いっぱい楽しいです。」「みんなで散歩するとみえる世界がちがったのしかったです。」

などの感想もありました。

そういった場のなかで、実際に「この子、いうことや指示に従えないけど大丈夫かしら?」「うちもそうなの」とおっしゃられる2歳の保護者の方もいて、「2歳は自我を出して確立していく時期なので、指示やいうことに従う前に、まずは自分のやりたいことを思いっきりやる段階なので、大丈夫ですよ」などという話ができ、安心されていました。



・出入り自由という場の設定も、公園と乳幼児との相性がよいと感じました。「時間内ならいつ来てもいいというのはとても参加しやすいです。初めてでもスタッフさんが気にかけて話しかけてくださりやすかったです。」「途中いつも遊具に気をとられてしまっていて離脱してしまうのですが、マイペースに参加させてもらってます。くぬぎの葉っぱがあんなにいい香りだなんて知りませんでした。次回も楽しみにしています!」「どうもありがとうございました。ほとんどちがう場所で遊んでいましたが、他のお友達やお母さんやスタッフの方と接する時間が持てて楽しかったです。」などという感想がありました。公園ならではの行き来ができつつも「はらっぱという場」があることで安心でき、発見や成長が広がることを改めて感じました。

9 目標達成

事業の目標:

参加人数 1回あたり10組20名 10回合計 100組

アンケートで下記の項目について参加者の7割以上が5段階で3以上の回答がある

外遊びをしてみたくなかったか・子どもの満足度・保護者の満足度・困ったときに相談しようと思うか・また来たいと思うか

目標の達成具合： 達成できました。

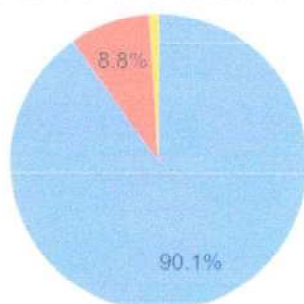
参加人数

1回あたり14組28名 10回合計 140組

アンケート回答結果

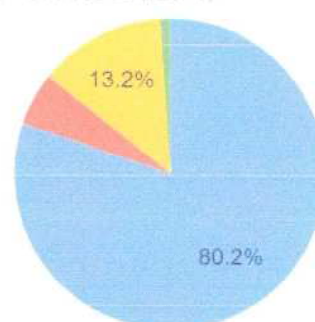
外遊びをしてみたくなくなりましたか？

- とてもなった
- 少しなった
- 未記入



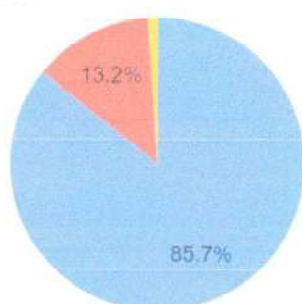
子どもの満足度（保護者記入）

- 満足
- どちらでもない
- やや満足
- 未記入



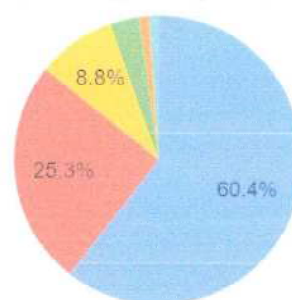
保護者の満足度

- 満足
- やや満足
- 未記入



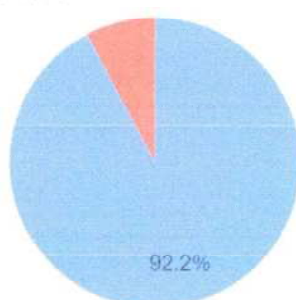
困ったとき相談しようと思いますか？

- とても思う
- やや思う
- どちらでもない
- あまり思わない
- 未記入
- やや満足



また来たいですか？

- とても思う
- やや思う



10 事業の実施内容

(1) 場所

子育て世代に広く親しまれているわかぐさ公園で、遊具ではなく、芝生の広場で遊びます。出入りは自由にして遊具とも行き来しました。

(2) 対象

妊娠期から3歳くらいまでの未就園児と保護者

妊婦さんから0歳～3歳を中心とした参加がありました。

実際に参加された妊婦さんは、第一子の方は子育て支援を知りたいとのこと、第二子・三子で上のお子さんと来場の方もいました。

(3) 参加費

無料としました。

(4) 参加方法

予約不要、出入り自由としました。実際に途中で来られる方・帰られる方がいました。

(5) 開催日程とプログラム

各日程 10:00～12:00 計10回 開催

ひろばとして、「おだやかに、おおらかに」「自然とともに」「家族のような仲間とともに」の3つを大事にしていく点とし、どんな親子も居心地よくゆったりと過ごし、子育て中のしんどさを一緒に分かち合い楽しめる雰囲気を作っていました。

プログラム概要

・初めての外遊びを応援しサポートするスタッフ(保育士・子育て支援員・臨床心理士)が常駐して繋がりを持ちながら、自然を感じる遊びを一緒にしていました。

・定期的に専門家(臨床心理士・助産師・自然体験活動の専門家でかつ青梅市近辺で子育てをしている方)とお話の時間も設けました。実際に開催してみたところ、自然遊び・お散歩の時間を長くとったほうが、同じ場所にじっとしているよりも、満足度が高いように見られました。そこで散歩に専門家も混ぜてもらいながら知り合いになり、後半短めにお話という形に変化させました。

・子育て広場よりも地域の方との壁がない公園という環境を生かし、「地域交流タイム」も定期的に持ちます。子育て支援団体の方、市役所職員の方や民生児童委員さんなどにもお声がけして、ご近所の方としてラフな形でお越しいただき、親子の実態を知りながら、一緒に遊びながらお互いに知り合える場を作りました。実際に民生委員さんにもお越しいただきました。

※天候・活動に関する配慮

おさがりの衣服を置いて、自由に持って帰ってもらうようにすることで、着替えも気にせず、のびのびとした遊びを促しました。実際に氷・水遊びや散歩で汚れたとき・濡れたときにおさがりの服があることで、思いっきり遊べると喜ばれました。

雨天でもカッパをきたり傘をさして、開催しました。本降りの回は1回だけでしたが、参加は2組4名と少なく、公園の利用も少ないため声掛けもできずでした。雨の日の楽しさ、準備や服装のことなどの広報・認知向上が課題です。

日程	目標	実績	達成率	新規参加	新規参加者率	内容	屋内広場を過去に利用していなかった人
----	----	----	-----	------	--------	----	--------------------

				者			(アンケートより)
9/13	20	33	165%	33	100%	氷や水にさわってひんやりしながら過ごそう(触覚) 助産師さんによるママのためのストレッチ	2
9/27	20	26	130%	9	35%	秋の森の空気を吸ってみよう(嗅覚) 臨床心理士さんによるお悩み相談会	8
10/4	20	36	180%	10	28%	秋のちょこっとさんぽ(体を動かす) 地域交流会～こどもと食～	1
10/1 8	20	30	150%	17	57%	※前日に市川様にて青梅市LINE発信 草むらに寝転がってみよう!(触覚) 助産師さんによる産前産後の相談会	0
11/1	20	38	190%	14	37%	秋のいろいろみてみよう(視覚) 臨床心理士さんによるセルフケア	1
11/1 5	20	4	20%	0	0%	※雨の為参加者少 インタープリター(自然案内人)と 秋をさわってみつけて感じよう 地域交流会～こどものそだち(青梅こども未 来様・活動紹介)	0
11/2 9	20	23	115%	13	57%	※朝から雨天も途中から晴れて後半来訪 落ち葉にねころがってみよう(触覚) 助産師さんによるからだのおてあて	1
1/17	-	-	-	-	-		-
1/31	20	19	95%	2	11%	鳥のこえ、風のおとをきいてみよう (聴覚) 臨床心理士さんによるおはなし会	0
2/7	20	32	160%	11	34%	※1/17の代替実施 インタープリターの日 冬さんぽ・霜柱や氷を さわってみよう 地域交流会～こどもと文化～(子ども劇場西 多摩様・活動紹介)	1
2/21	20	39	195%	16	41%	インタープリターの日・冬をさがしてみようオ ノマトペさんぽ 地域交流会～みんなでわいわい子育てマッ プづくり	1
計	200	280	140%	125			

人員配置 スタッフ3名(保育士または子育て支援員・臨床心理士・子育て経験のある方)、講師(臨床心理士・助産師・インタープリター)

募集方法 子育て支援センター・市民センター・子育て広場へのポスターチラシ配布
広報おうめ・市のラインへの掲載
住宅課(移住推進)でのチラシ配布
団体インスタ・ホームページ・フェイスブックなどでの広報
西多摩新聞等での掲載

11 実施団体と担当課の事業評価

4はい 3どちらかといえば「はい」 2どちらかといえば「いいえ」 1いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	
(3)協働の役割分担は適切だった	4	
(4)協働相手は適切だった	4	
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	
(7)事業実施は円滑になされた	4	
(8)設定した目標が達成された	4	
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	

12 まとめ(今後の課題や改善点など)

■総括

全体として、対象者に想定よりも多くの方に参加いただき、「子育てがもっとも大変な妊娠期から乳幼児期に、青梅市ならではの自然を生かした子どもの健全育成の場、子育て家庭と地域との繋がり場をつくることで【自然であたたかいつながりのあるふるさとおうめに生まれてよかったな】と親子が思えるような場を作る」という目標を今年度達成できたと考えます。次年度以降も継続して開催していくことで、作り始めた繋がりを深め、場の認知を拡大し、より地域に根付いた「自然豊かであたたかなつながりのある青梅市ならではの子育て支援の場」として貢献できると考えます。

■雨天・低温時の開催

雨の日の楽しさ、準備や服装のことなどの広報・認知向上が課題です。屋根のある場所もある場での雨散歩から始めると、着替え場所に安心できて、より参加しやすいのではと考え、わかぐさ公園の近隣で場所を開拓し、次年度試行します。

■認知の向上

後半、公園内での「はらっぱ」の散歩中に親子連れへの声掛けを積極的に行うようにしていったところ参加が増えました。実際にはらっぱへ参加いただく方が増えてきた段階で、そのようすを実際に見て混ざりたい、遊んでみようと思う層の方と出会うことができたと考えます。また、公園を歩いているベビーカーを押している保護者の方に声をかけると「子の1か月健診後、初めて外へ散歩に出た」とのこと。不安そうだったので、はらっぱのことをお話してよかったら立ち寄ってくださいねと声掛けすることで笑顔になっていただけたこともありました。これは通常の利用の多いわかぐさ公園だからこそできる活動なので、今後はスタッフとして公園利用者への声掛けにも力を入れていきます。

■自然とのふれあいプログラムの進化

実際に開催してみたところ、自然遊び・お散歩の時間を長くとったほうが、同じ場所にじっとし

ているよりも、満足度が高いように見られました。またインタープリターの来る回を目指してきたとの声も聞かれました。次年度は、身近な公園での自然の見え方が変わったり、発見のあるさんぽをより充実させていけたらと思います。また遠足としてより自然とふれあえる場へ出かける回も増やしていきます。

■地域との交流

後半、公園を利用されている高齢者の方から読み聞かせをしてあげたいとの申し出がありました。実際には中止などで実現はしなかったのですが、今後は「はらっぱ」で大事にしている親子がリラックスしてのびのびとした雰囲気尊重をしながら、地域の方にも混ざっていただくような場づくりを試行してみます。

13 その他 活動写真



複数回参加いただいた親子



受付風景



まどからのぞいてみよう



はらっぱはいはいタイム





地域のおはなし会(子ども劇場西多摩)終わりの会で輪になって



みんなの子育てマップ
(ピンク・利用しやすいお店、青:病院、緑:ひろばや遊び場)

令和4年度市民提案協働事業 事業報告書

事業名



- | | | |
|---|-------|-------------------|
| 1 | 実施団体 | 和楽倶楽部 |
| 2 | 担当課 | 商工観光課 |
| 3 | 実施時期 | 令和5年2月17日 ～ 3月21日 |
| 4 | 参加者 | 約300名 |
| 5 | 実施場所 | 梅の公園 |
| 6 | 事業の目的 | |

行政テーマである「梅まつり期間の吉野梅郷地域を盛り上げるイベントの開催」に合わせて「和楽倶楽部流ともしびフェスティバル in 梅まつり」を開催しました。

和楽倶楽部では毎年「ともしびプロジェクト」というイベントを行ってきました。これは東日本大震災を忘れない、風化させないという思いをもとに自分たちにいつ起こるかわからない「災害」に対しての防災意識を高

この取り組みを災害からの復興ということで梅の木の復活に合わせて、より多くの方と分かち合うことを目的にし、イベントを開催することで、防災意識の向上と梅まつりの来場者数増員につながりました。

- ・ 団体の役割 ステージイベント・ワークショップ・塗り絵の展示などの企画、運営、制作
 ステージの運営
 広報
- ・ 担当課の役割 会場の確保・一部設営
 パンフレットへの掲載
 広報

「梅まつり期間の吉野梅郷地域を盛り上げるイベント」として「和楽倶楽部流ともしびフェスティバル in 梅まつり」を開催することにより呼び寄せるきっかけを作ることができました。また、3月11日といったイベントの実施日もあり、東日本大震災の復興を想い、現地の方とともに黙とうをささげ防災意識を高めるきっかけにもなる取り組みとなりました。

9 目標達成

事業の目標：来場者に防災の意識を高めていただくきっかけをつくる。
和楽倶楽部流ともしびフェスティバル in 梅まつりを開催
することで来場者数を増やす。

目標の達成具合：イベントの内容について、全体的に梅の木の復活と東日本大震災の被災地の復興をテーマに3月11日に向けて行ってきた。梅まつり実行委員会にも参加させて

いただき他のイベントとも連携することで梅まつりの全体との交流も取れたと思います。塗り絵の展示に関しては梅まつり期間中に長期掲載していただくことによってご家族で会場に訪れた方が多くおられました。また、ステージやワークショップなどに出演された方などの吉野梅郷の梅を見に来られるきっかけになりました。

10 事業の実施内容

○梅まつり期間中のぬりえの展示

2月14日（土）～の梅まつり期間中、塗り絵の展示を行いました。塗り絵は事前に市内の学童クラブの生徒や、青梅市立第五小学校5年生の生徒の皆さん、和楽倶楽部内でも募集しました。塗り絵の題材は「ともしびプロジェクト soy time art」の発起人であり、福岡県で美術家としても活動している方に「青梅のイメージ」というテーマで描いてもらいました。

○ワークショップの開催

- ・紙灯明づくり 毎年和楽倶楽部で「ともしびプロジェクト」で作成してきた紙灯明づくりのワークショップを行いました。参加者の皆さんはとても楽しみながら作業を行っておりました。
- ・シャボン玉ワークショップ
身近にあるものでシャボン玉を作るというワークショップで子どもたちが親と一緒に取り組んでいる姿が多くありました。
- ・塗り絵のワークショップ
塗り絵の展示の作品を当日この場所でも行いました。塗り絵は梅の花の花火がさらに梅の公園にぬりえの花火を咲かせてくれました。
- ・折り紙のワークショップ
ステージの背景画に使用するための梅の花の作品を作ってくださいました。その梅の花をステージの背景画に咲かせることでステージ上の演出につなげることができました。
- ・すべてのワークショップを回ってもらった方には和楽倶楽部のオ

オリジナルキャラクターの手作りぬいぐるみのプレゼントをさせていただきました。

○ステージ

ステージの演出として制作の梅の木を置きました。木の制作は吹上子どもクラブにて一緒に作らせていただきました。

また事前に折り紙の梅の花を様々な方に都立青梅総合高校定時制の生徒の皆さん、青梅市立吹上中学校の生徒の皆さん、ステージ演奏をされる皆さんなどさまざまな方に作成していただきました。

演出としてはオープニングではまだまだ少ない梅の花が、エンディングに向かうにつれて満開に近づいていくという演出をしました。ステージの演出はプロのシンガーソングライターを3名をお呼びし、地域で活動している手作り紙芝居の団体や、シャボン玉アート、お琴の演奏、オリジナルバンドなどのステージ披露、14:46には福島や仙台とりもてつないで東日本大震災のともに黙祷を行いました。また青梅の福祉キャラクターお～ちゃんにも登場していただくことで子どもも大人も楽しめる企画となりました。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

イベントの実施という貴重な体験をさせていただきました。今後の課題はイベントの運営に関してはタイムキーパーや司会担当やくなどの役割分担や適切な場所での機材の設置（音源をパソコンに取り込んでいたにも関わらず当日作動しないといったハプニングもありました。）をしっかりと行うことでよりスムーズな運営ができたのだと思います。

また、雨天時でも実施できるような取り組みの企画・運営の方法をより具体的にイメージしていくことができれば進行中に悩むことなどが少なかったと思いました。

・担当課側

イベントの実施にあたって、イベント設営場所の確保や実施内容の計画等のすり合わせを適切に行えた。

ただし、雨天時の実施内容・場所については、具体的な方向性を事前に少しでもイメージしておくことが必要であったと感じる。

例えば、施設内でのイベント開催内容・場所など。

13 その他

事業名 「わたしが楽しむとまちがよくなる」



1 実施団体

特定非営利活動法人子どもと文化の NPO 子ども劇場西多摩

2 担当課

市民活動推進課

3 実施時期

2022 年 11 月 3 日（木）14：00-16：00

2023 年 2 月 4 日（土）10：00-12：00

4 参加者

2022/11/3 55 名 + 登壇者 10 名

2023/2/4 27 名 + 登壇者 6 名

5 実施場所

青梅市役所 2 階会議室

6 事業の目的

この事業は、市内の様々なまちづくり・人づくりに関わる団体や個人が、それぞれの活動をもとに交流し、ネットワークをつくること、またお互いの活動からヒントを得てそれぞれの活動がさらに発展していくことを目的とする。

またこれから何かに関わりたいと考えている方が、市内の活動を知り関わりをもつきっかけの場を創出することを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割 企画・運営・広報

・担当課の役割 広報・講座への参加・団体の情報提供や紹介

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

今回の事業では、多くの市民が活動を知るきっかけとなるようにと、青梅市の中で様々なテーマで活動している9団体を紹介したところ、登壇者の「西多摩・子どもオペラによる街づくりの会」から登壇の方より、「自分は音楽という角度で青梅に関わってきたが、こんなにたくさんの方がまちをよくしようとして動いていることに大変感動した。こういう会があると勇気がもらえる。横のつながりが大切だと思った。」というお声を頂いた。今回の講座を通じて、市内の様々な活動が「見える化」でき、市民に知らせることができたと共に、市内で活動するもの同士も改めて知り合い、つながることができた会となった。

9 目標達成

事業の目標：2回の講座において、4つの活動を紹介し、合計8つの市内の団体・個人を紹介できることとする。また講座の参加者を40名を目標として、一人でも多くの市民が共に考えられる場を創出する。

目標の達成具合：11月の会で9団体、2月の会では一回目の団体の内3団体を再度とりあげた。8つの団体という目標を達成し9団体の紹介ができた。

講座の参加者人数としては、11/3の学習会は達成し、
2/4の会は達成することはできなかったが、
2回続けての参加者もあり、内容を深めることができた。

10 事業の実施内容

2022年11月3日

「わたしが楽しむとまちがよくなる～～市内の活動の魅力を知って、〇〇しよう～」
市内9つの活動を紹介しながら、一人一人が「楽しむ」ことでどんなふうにまちがつくられているのかを感じられるシンポジウムの開催。これから何かしたいと考え

ている方が、市内の活動を知り関わりを持つきっかけの場を創出することを目的とし各団体 8 分程度発表、コーディネーターより質問などしながらテーマを深めた。

■登壇団体：ひまわりプール保存会/木野下田んぼを愛する会/ノルディックウォーキングクラブ青梅/あすくり青梅/ゆめなりき/おうめ若者カフェ/青梅市青少年対策青梅地区委員会/ままにこっと/西多摩・子どもオペラによる街づくりの会

■コーディネーター森本真也子氏（（特）子どもと文化全国フォーラム代表理事）

2023 年 2 月 4 日

「わたしが「楽しむ」とまちがよくなる～わたしが楽しんだその先に～」

前回の参加団体より 3 つのご活動を再度ご紹介しながら、私が「楽しむ」ということをさらに分析していくことにより、どんな市民活動も最終的には【人や自然と共生する喜び・楽しみにつながっていること】、また私が楽しんだその先にあるものが、地域における共生社会の実現なのではないかということを、参加者の皆さんと共有できる会となった。

■登壇団体 木野下田んぼを愛する会/あすくり青梅/おうめ若者カフェ

■コーディネーター森本真也子氏（（特）子どもと文化全国フォーラム代表理事）

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・ 団体側

今回の協働事業では、事前から内容も含めて担当課と話し合い、青梅市の市民活動の場において、今なにが必要なのかの課題共有から始まり、2回のシンポジウムを設定できたことは、協働事業に大変ふさわしい形態が取れたと考えられます。今後もこのような市民活動のネットワークがつくられる講座があったらよいという案が、事後のまとめ会の中で、担当課とも話題になり、今後につなげられるような形を模索したい。

・ 担当課側

2回のシンポジウムの開催を経て、団体同士の横のつながり・志ある人と団体のつながりが、市内における市民活動の活性化にとって重要なことの一つであることを実感した。また、各団体のアクションが活発であることと、まちに活気があることには大きな関係性があるとも感じた。まちづくり・ひとづくり団体のネットワーク構築に取り組んでいきたい。

13 その他